2015
ISSN 0918-8711
No.36

GOLD & PLATINUM

GOLD & PLATINUM

CONTENTS

巻頭言 …… 3
設立35周年に寄せて …… 4
協会設立35周年 特別座談会 …… 5
協会設立35周年 記念講演会（抄録） …… 10
国際商品総崩れ 金の価値は色あせず …… 11
協会設立35周年記念
オーストラリア訪問記 …… 14
需給動向をベースにプラチナ市場を読む …… 18
ジョン万次郎とゴールドラッシュ …… 21
写真で見る驚きのゴールド② …… 22
プラチナは20億年の時を経て
地球から贈られた宝物 …… 26
江戸のゴールドラッシュ生みの親 …… 29
永遠の妖精オードリーの光と影 …… 30
今、静かに注目される金 …… 32
2014年の世界の金の供給と需要 …… 34
プラチナ・ジュエリー市場動向 …… 36
2014年の世界のプラチナの供給と需要 …… 38
金価格（月間平均）の長期推移と主なイベント …… 40
日本金地金流通協会・沿革と活動 …… 44
協会役員の紹介 …… 44
正会員 …… 45
特別会員 …… 46
登録店 …… 47
賛助会員 …… 51

表紙写真：純金製の玉盃（ぎょくはい）。酒を注ぐと中央に美しい球体が浮かび上がる、祝い事にふさわしい酒器。

編集・デザイン：株式会社 麹町ディレクション（澤田直良、木下裕之）／イラスト：haruka ／撮影：児島一伸、高山 透

巻頭言

一般社団法人
日本金地金流通協会
会長 田苗　明

当協会は昭和54年12月に設立が許可され、翌年1月に発足して以来、おかげさまで本年35周年を迎えることができました。これもひとえに、一般消費者の皆様、正会員、特別会員、登録店並びに賛助会員の皆様方のご支援とご協力の賜ものと厚く御礼申し上げます。

さて、当協会の設立目的である「金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及」については、広報活動や教育研修などの地道な活動を通して大きな成果を得ることができたと考えております。そして現在は、その活動の範囲を金地金に限らず、金貨、プラチナ地金等にも広げており、一般消費者の方々がいつでも、どこでも安心して売買できる環境づくりに注力しております。

近年では世界的な政情不安や、経済状況がめまぐるしく変化する中で、安定資産としての金がますます注目されております。

一方、社会的要請としての犯罪収益移転防止法、支払調書に対する法令遵守を徹底すると共に、今後はマイナンバー制度の導入開始に伴う一般消費者への広報活動などの取り組みに努めてまいります。

引き続き何卒、当協会の活動をご理解していただき、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 日本金地金流通協会
設立35周年に寄せて

経済産業省 資源エネルギー庁
鉱物資源課長
萩原 崇弘

一般社団法人 日本金地金流通協会が設立 35 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

この間我が国は、高度経済成長から円高不況、バブル経済の崩壊、リーマンショックに端を発する世界的な金融危機など、大きな変化を経験してきました。

貴協会は、1978年4月の金取引の自由化以降、取引が活発化し、投資商品としての関心が高まる一方、現物まがい商法などによる一般消費者の被害が社会問題化するなど、様々な困難を抱えた時期に、我が国の健全な金・貴金属流通を推進する中心的な役割を果たす機関として設立されました。

設立後、この「GOLD & PLATINUM」の出版等による広報活動、各種講演会、あるいは研修会の開催による普及・啓発事業の実施により、金及び貴金属地金の正しい知識の普及や健全な取引を推進され、重要な役割を果たしてこられました。

貴協会におかれましては、世界経済が変化する中、今後とも金及び貴金属の健全な取引を推進していただき、マネーロンダリング対策や、新たにスタートするマイナンバー制度への対応など、一般消費者が金及び貴金属を安心して取引できる環境づくりに引き続き中心的な役割を果たしていただくことを期待しています。

末筆ながら、これまでの貴協会及び関係各位の御尽力に深く敬意を表しますとともに、会員の皆様が益々の御発展を遂げられますことを心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

貴金属市場の健全な発展のために、努力を惜しまず邁進してまいります。

歴史をたずね、歴史に学び、そして明日の歴史をつくる。
協会の要職にある方々にお集まりいただき、
これまでを振り返り、将来の展望を話し合って頂きました。

〈 出席者 〉
田苗　明　（当協会会長）
片桐　俊一　（当協会副会長）
古宮　誠一　（当協会副会長）
山口　純　（当協会理事）
井嶋　隆之　（当協会広報委員長）
叶内　文子　（司会・進行）

叶内　はじめまして、本日、座談会の司会を務めさせて頂きます叶内でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

田苗　宜しくお願いします。本題に入る前に、ひと言ご挨拶をさせて下さい。皆様、本日はご多用のなかお集まり頂き、誠に有難うございます。本年6月の総会にて会長職を拝命いたしました田苗でございます。微力ではございますが、皆様のご指導を仰ぎながら、会長として尽力いたす所存でございますので、何卒宜しくお願いいたします。

全員　よろしくお願いいたします。

田苗　当協会も本年をもちまして設立35周年を迎えることとなりました。これもひとえに、一般消費者の皆様、当協会の構成メンバーであります正会員の皆様、特別会員のワールド・ゴールド・カウンシル様、プラチナ・ギルド・インターナショナル様、登録店の皆様、そして鉱山会社、商社、貴金属業界関係各社からなる賛助会員の皆様のおかげです。この場をお借りして、ご協力に深く感謝申し上げます。

会長

田中貴金属工業株式会社
代表取締役社長
田苗 明

叶内　有難うございます。それでは、田苗会長、日本金地金流通協会の設立主旨からお話し頂けますか。

田苗　日本においては1978年(昭和53年)に金輸出入が完全自由化されました。当協会は、自由化を契機に急速な発展を遂げる貴金属市場と共に歩んでまいりました。これまで国内外のさまざまな変化に対応してまいりましたが、当協会の設立目的である「貴金属の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及」については、現在まで不変であり続けております。今後も継続するものと思っております。

叶内　時代の変遷に揉まれつつも、流されることなく歩んで来られたわけですね。

田苗　もちろん当協会の正会員だけで出来るものではありません。登録店の皆様、賛助会員の皆様のお力をお借りして、そういう活動を継続してきたと認識しております。

叶内　はい。ところでいま「金輸出入の完全自由化」についてのお話がありましたが、その点で何か新しい動きはあるのでしょうか？

田苗　自由化関連での変化はとくにありません。ただ、知っておいて頂きたいことがあります。現在、日本では、金はわずかな量しか採掘されません。プラチナ族にいたっては全く採掘されませんから、海外からの輸入に頼っているのが実情です。日本は南アフリカ産出のプラチナを相当量輸入しているのですが、現地の鉱山会社は経営そのものが厳しい状況になっております。国の政策によって鉱山労働者の権利が高まり、賃上げや福利厚生の改善が進んでおり、それが採掘コストを押し上げる方向に働いているのです。もうひとつ付け加えますと、ロシア産のプラチナ、パラジウムは、政治的な背景などにより、過去より供給懸念があります。

叶内　稀少資源は国際政治とも深くつながっていますものね。田苗会長、有難うございました。では、古宮副会長にも協会設立当初の話をお伺いしたいのですが。

古宮　私からは設立に至るまでの経緯をお話ししましょう。1947年（昭和22年）に私ども貴金属地金商が中心となって貴金属協議会を設立し、さまざま協議をしておりました。1953年(昭和28年)に協議会を発展的に解消し、地金商14社と1団体で貴金属地金協会を設立しました。それが土壌となり、当時10社近くあった鉱山会社と地金商との取引が始まりました。ところが、1978年に金が完全自由化されると、貴金属に関係のない会社が、貴金属現物の裏付けのないペーパー商法で世間を騒がせ、その問題が国会で議論されました。しかし、当時の通産省（現・経済産業省）は貴金属業界の実態に精通されておらずお困りになったわけです。そこで通産省からの要望もあり、我々も協力すべきだろうということで、貴金属地金協会を母体にもう一歩進んだ公的な団体として、現在の日本金地金流通協会がスタートしたわけです。

叶内　それは貴重な歴史の証言ですね。

古宮　そこから一般消費者が安心して取引できる店舗網の整備が始まりました。全国の宝飾店等と我々地金商が契約を取り交わし、登録店になって頂きました。同時に金についての知識の普及活動も始めました。さらに登録店の名前を新聞や雑

副会長

石福金属興業株式会社
代表取締役会長
古宮 誠一

誌に掲載したり、登録店の皆さんに集まっていただいて勉強会を開いたり。この35年間そういう活動を重ねてきたわけです。

叶内　いま私たちが安心して貴金属を売買できるのも、そういう歴史と背景があったわけですね。では、片桐副会長からも振り返っていただけますか。

片桐　私の場合は、設立して10年ほど経過してから、協会の広報活動に携わらせて頂きました。なかでも印象深く記憶に刻まれておりますのは、田中淳一郎初代会長の、「我々は金地金を売っているのではありません、信用を売っているのですよ。」という言葉です。

叶内　素晴らしいお言葉ですね。

片桐　貴金属取引においては信用が第一なんだよ、と。正会員は当然のこととして、登録店の皆様にもしっかり理解して頂くことは、協会の大切な仕事の一つでした。私自身、登録店の皆様の繁栄を願いつつ、公正な取引について啓蒙を続けることが、金の健全な流通整備に役立つのだという使命を持って取り組んで来ました。

叶内　協会と登録店は、ともに発展する関係ということですね。片桐副会長、有難うございました。では、ここから直近５年の活動について伺ってまいりたいと存じます。前会長の山口理事、この５年間で特筆すべき活動についてお話し頂けますか。

副会長

片桐貴金属工業株式会社
代表取締役社長
片桐 俊一

山口　おもな活動を申し上げますと、支払調書対応、実務者研修、紛争鉱物対応、当冊子「ゴールド＆プラチナ」の刷新、そしてオーストラリア・パースへの視察でしょうか。なかでもいちばん心を砕いたのは実務者研修です。こちらは、ワールド・ゴールド・カウンシルの「ゴールドアドバイザー制度」を協会が継承し、金の専門的な知識を持つ販売員の育成を担うものです。しかし協会の予算には限りがあります。どのような貢献が出来るのか議論が白熱しましたが、皆様のご協力のおかげで無事にスタートすることが出来ました。現在も研修は継続し、実を結んでいると思います。

叶内　たしかに店頭に頼れる相談相手がいると助かりますものね。その他にぜひ伝えておきたいという点はございますか。

山口　支払調書についてひと言。金・プラチナの現物については、200万円超の取引があった場合、店舗から税務署に調書を提出して下さいという法律が2012年に施行されました。これについて、正会員各社、登録店の皆様に、周知徹底したというのがありました。

叶内　有難うございました。では、井嶋広報委員長、この５年の活動についてお願いいたします。

井嶋　重点を置いたのは、やはり税制改正についての広報活動です。売却益が出た場合に申告義務があることを知らない方が多かったので、トラブルを未然に防ぐための広報は重要でした。

理事（前会長）

株式会社徳力本店
代表取締役社長
山口 純

叶内　その当時ラジオのリスナーの方々や株式投資のお客様方からも、貴金属の税金についての質問をよく頂きました。

井 嶋　それともうひとつ。ここ数年、貴金属価格が高い水準にありましたから、「貴金属の押買い」とか「鉱山株の押売り」とか、昔はあまり聞かなかった詐欺まがいの迷惑行為が頻繁に起きていました。一般消費者に被害が及ばないように、ウェブサイトや新聞雑誌での広報活動で注意喚起を行いました。

叶内　健全な取引を目指す協会からの大切なメッセージですね。では、ここで最近の相場状況をお聞かせ下さい。リーマン・ショック以降、金価格がかなり高騰しましたが、足元では停滞しています。このあたりの背景をお話し頂けますか。

片桐　せっかくの35周年記念号ですから、大きなトレンドの話をしましょう。協会が設立された1979年（昭和54年）は重大イベントが二つ重なりました。ひとつは第二次オイルショック、ひとつは旧ソ連によるアフガニスタン侵攻です。当時は東西冷戦のただ中でしたから、貴金属の価格はすぐに反応して暴騰しました。ただし、実需の裏付けがない投機資金による上昇でしたから暴落も早かった。それから貴金属相場は1990年代の終わりまで長い低迷が続きました。ところが、欧州各国の中央銀行が、ユーロ導入を前に金売却を制限する協定を結びました。

叶内　たしか1999年（平成11年）の事でした。

広報委員長

井嶋金銀工業株式会社
代表取締役社長
井嶋 隆之

片桐　それを契機にトレンドが変わりました。中国も金取引を一部自由化したことで需給バランスが取れて価格が上がって来ました。その途上でリーマンショックがあり、リスク回避のための金への資金移動が加速しました。それが最近ではドル独り勝ちの状況になって、金は下げて来ています。

叶内　これからどうなのでしょう。

片桐　米国が利上げに動くと、金利の付かない金はさらに売られるという見方はあります。しかし世界をひろく見渡せば、ギリシャ不安は続いていますし、中国の景気後退も気になります。不安が高まると金の価値は見直される傾向にあり、思ったほど下げていません。しかも日本の場合は、ドルベースの下げが円安で相殺されて、日本の皆様にとっては大きな下げにはなっていません。

叶内　その点について、田苗会長、いかがですか。

田苗　少し視点を変えてお話しします。貴金属の価格はたしかに低迷しています。しかし、金やプラチナの価値はリーマンショック後の世界的な信用危機を契機に再認識されたと思っています。それともうひとつ。世界の人口は現在73億人ですが、2050年には97億人になると予想されています（国連推計）。地球の希少資源である金やプラチナを、今後増大して行く人口で配分するとしたら、一人当たりの量はますます少なくなっていきます。ですから長い目で見ると、価値は高まっていくと思います。地球の限りある資源を採掘する

司会・進行

経済キャスター
日本証券アナリスト協会検定会員
叶内 文子

というのは、簡単な話では有りませんから。

叶内　一人当たりの配分という見方は面白いですね。古宮副会長はどのようにお考えですか。

古宮　私はよく金準備について考えます。現在、米国が8,133トンで一番です。欧州のドイツやフランスなどは2,500～3,000トンを維持しています。ところが日本は765トンしか保有していない。米国に遠慮して金ではなくドルを持っているわけです。しかし、これから何より現物が大事だという時代が来るかも知れない。国も個人も、将来のためにある程度の金は持っていた方が良いと思います。

叶内　米国と日本との関係が透けて見えるお話ですね。ところで、若い方々に、金やプラチナを安定資産として持ちましょう、というような広報などはお考えですか。

井嶋　とくに若い方に限定はしておりませんが、株と貴金属は値動きが違うことが多いですから、ポートフォリオの一つとして持つという考え方をお勧めしています。

山口　じつは私自身、純金積立をやっておりまして、毎日少しずつ着実に買っていくのは王道なのかなと実感しております。短期的な値動きは気にせず、将来の万一に備える資産を少しずつ、という考え方が健全と思います。

田苗　金を資産として持つという意味では、いまの若い人には、金やプラチナの積立は入りやすいですね。知らないうちに貯まっていくというのが良いです。店頭では最近コインの取引が増えています。地金も大きなのも売れますが、小さなものが動くようになりました。

古宮　買いやすいというのもありますが、売る際にもこまめに対応することができるので、小回りが利きますから。

叶内　金は買うだけじゃなく売りもありますものね。

片桐　そう、お店側は販売するだけでは駄目なのですね。一般のお客様は価格が高い時に売りに来られるのだから。その時に、どんなに大勢のお客様が来られても、資金をきちんと用意して買い取ることが大事です。そこが貴金属の商売の信用につながっていくわけですから。

叶内　いいお話ですね。まだお聞きしたいことは山ほどあるのですが、お時間が来てしまいました。今後の広報活動について、井嶋広報委員長、そして最後に田苗会長からひと言お願いいたします。

井嶋　基本的には、いままで通り、「金の健全な取引」を皆さんに理解して頂くための活動を行ってまいります。また、詐欺的な行為が出た場合には、一般の方が被害に遭わないように、速やかに広報して行きたいと思います。

田苗　冒頭でも申し上げましたように、協会として「貴金属の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及」に関しては、ぶれずに続けてまいります。そのために実務者研修も継続してまいりますし、来年１月から始まるマイナンバー制度など法改正への対応にも取組み、皆様に周知させて頂きます。今後とも、宜しくお願いいたします。

叶内　本日は貴重なお話をたくさん伺いました。どうも有難うございました。（了）

協会設立35周年　記念講演会（抄録）

2015年3月25日（水）、日本工業倶楽部会館二階・大会堂にて、協会設立35周年・記念講演会を開催いたしました。スピーカーに「バカの壁」等の著作で知られる養老孟司氏、金融・貴金属アナリスト亀井幸一郎氏のお二人をお招きし、講演して頂きました。会場である日本工業倶楽部会館２階大会堂には、協会正会員、全国の登録店、賛助会員、ならびに業界関係者各位まで、総数およそ200名の皆様が列席されました。

養老孟司氏

亀井幸一郎氏

第１部：「本質を見抜く力」

東大名誉教授　養老 孟司 氏

そもそも人間だけがお金を使うようになった理由とは何か。基本的に生き物は感覚優位で生きています。そして感覚というのは「違い」や「変化」を捉える能力と言い換えることができます。ところが、人間は、成長過程で「違い」を捉える感覚能力を低下させ、代わりに「同じにする」という奇妙な能力を持ちました。

「同じにする」能力が洗練されて交換のルールが作られ、等価交換が始まりました。お金が発生し、そこに金（ゴールド）が使われた。金の化学的性質は簡単には変えられませんから、等価交換の媒介物としては理想に近かったのでしょうね。

ちなみに交換が人と人の間で起きることが、人間の社会の基本となります。相手の立場にたって物事を考える。自分と相手を交換できるようになる。これが近代社会の平等の基礎になりました。

第２部：「内外金融環境と金市場」

マーケット・ストラテジィ・インスティチュート
代表取締役　亀井 幸一郎 氏

リーマンショック以降、米国はこれまで 400 兆円規模のドルをばら撒きました。日欧も追随し、両者で年間 180 兆円くらいばら撒いています。このところ株や債券、商品市場も値動きが荒くなっています。金融経済の安定を目的にばら撒かれた膨大なマネーが、次の不安定な環境につながっているのです。この中で利上げに向かおうとしている米国。日欧と逆向きの政策は、金利差拡大などから行き過ぎたドル高など波乱を招く可能性があります。金利の上昇は、ドル建て債務の多い新興国の金融経済へのプレッシャーになるため、その動向は要注意といえます。不動産価格に続き株価がバブルの様相を濃くしている中国からも目が離せません。

昨年の金生産は年間 3,133 トンでした。時価評価で、わずか 11 兆円程度にすぎません。お札のように簡単に刷れない金は、ゆっくり価値を上げそうです。

国際商品総崩れ 金の価値は色あせず

日本経済新聞社
編集局編集委員
志田 富雄（しだ とみお）

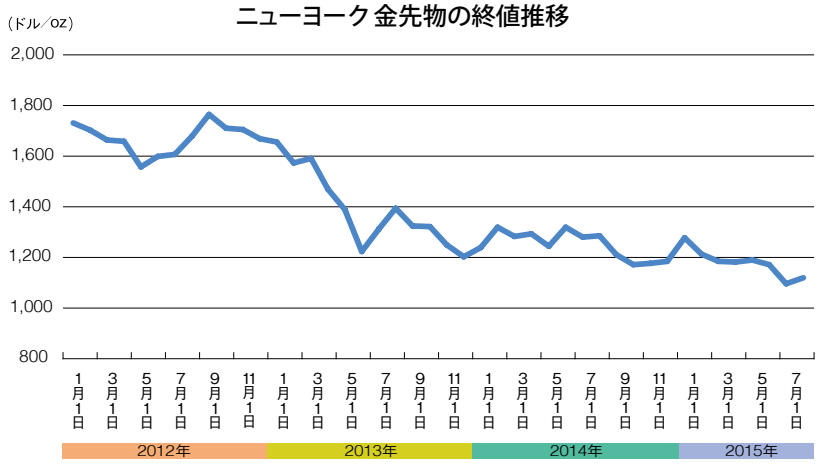
国際商品相場は総崩れに近い。中東やロシアの地政学リスクを支えに１バレル100ドル前後を維持していた原油相場も昨年夏から急落し、2008年７月に記録した史上最高値の３分の１以下に下げた。理由は明白だ。今世紀に入って世界の経済成長をけん引するようになった中国などの新興国に陰りの色が強まる一方、米国経済の回復でドルの信認が回復してきたためだ。しかし、世界に経済不安や地政学リスクがある限り、金の輝きだけは色あせない。

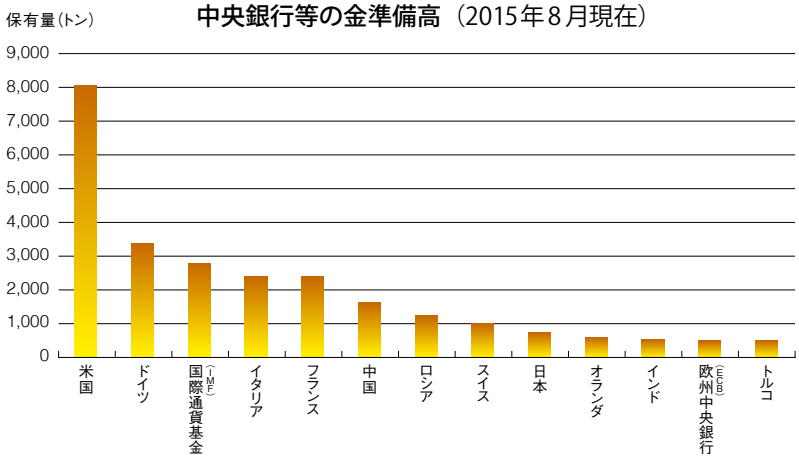
投資マネーは金から株に回帰

金の国際相場が初めて１トロイオンス1,000ドルを突破したのは2008年３月。リーマン・ショック直後には一時680ドル台まで急落したものの、2011年９月にはニューヨーク先物の中心限月で1,920ドル台の史上最高値を付けた。金が投資マネーをひき付けた理由は「米国経済とドルへの不安」だ。金と同じ2011年に史上最高値を記録した銅や鉄鉱石の相場上昇をけん引した主因が金融危機後に「中国政府が打ち出した大型の景気対策」であったのと少し異なる。なぜ、原油の最高値が金や銅よりも早い2008年だったのか、疑問を持つ読者もいると思うが、おそらくは世界最大の石油消費国が中国ではなく、自動車保有台数で世界最大の米国であり、原油相場を押し上げた原動力が「住宅バブルで膨らんだ米国景気」だったからだろう。

主要な国際商品相場を押し上げていた３つの要因はその効力を失った。米国経済は順調に回復軌道をたどる。米国が危機対応の金融政策を正常化し、政策金利の引き上げ時期を探る段階になれば金に逃避していた投資資金は株式市場などに戻るのは当然だ。代表的な金のＥＴＦ（上場投資信託）である「ＳＰＤＲ（スパイダー）ゴールド・シェア」の投資残高は、もっとも多かった2012年12月の1,350トン強から８月下旬には670トン強と、ピーク時の半分を下回った。金融危機後に金関連の投資で注目を集めた有力投資家、ジョン・ポールソン氏のファンドも金ＥＴＦの保有高を大きく減らしている。ＥＴＦを売却したファンドは株式投資の配分を増やし、今夏までの米国や日本の株高につながった。

ニューヨーク金先物の終値推移





中国、ロシアは
公的保有量で
世界5、6位に

IMF統計からワールド・ゴールド・カウンシルまとめ

ただ、金の国際相場は米国経済と米金利、ドル相場だけを材料に動いているわけではない。金の国際相場を下支えしている要因には、ギリシャの債務危機を踏まえた欧州での金需要やインドなど新興国の現物投資が根強いことがある。米国の利上げ観測と堅調なドル相場は金の国際相場を下押すものの、根強い不安が金相場を支える構図だ。今年に入って金とプラチナ（白金）相場が再び逆転し、８月下旬時点で金相場が 120 ドルほど上回る状態になった。米国を先導に世界景気が回復し、株式相場が高値を追うのであれば産業需要の影響が大きいプラチナ相場が高い通常の状態に戻るはずだ。投資マネーはドルと株に回帰しても世界経済に不安は根強い。

金はデフレにも対抗できる資産

銅や鉄鉱石の国際相場を急落させた中国経済の急減速がそのまま金の売り材料になるとはかぎらない。もちろん、インドと並ぶ中国の金需要に陰りが出ることはマイナス材料だが、中国の抱える債務がデフォルト懸念を強めたり、資源相場が経済力の弱い資源国の危機につながったりする可能性もある。中国発のデフレ圧力が世界にのしかかった場合、そこで起きるのは企業や地方政府、脆弱な国家のデフォルトの多発だ。金は一般にインフレによる資産の目減りに対抗する資産として知られるが、デフレにも対抗できる資産と言える。

世界の金やプラチナ相場を左右するシカゴ・マーカンタイル取引所（ＣＭＥ）グループの先物取引はコンピューターを駆使した高速自動取引（ＨＦＴ）が影響力を増し、金相場が１日で 30 ドル以上変動することも珍しくない。短期的にはＣＭＥの先物主導で相場は劇的に動く。しかし、原油や鉄鉱石の国際相場が史上最高値の３分の１以下にまで下げたのに比べれば金の国際相場はなお安定している。しかも、ドル高・各国通貨安が進んでいるのだから、ドル以外の国の通貨でみた金価格は国際相場ほど下がっていない。

金の宝飾品を買い集める人はインドだけで数億人にのぼる。ルピー建ての金価格が下がり買い時と思えば、買う量は増す。インド政府は金の輸入量を減らそうと国民の持つ金製品を国内に流通させたり、新たな投資商品を導入したりする計画だが、インド人や中国人の金志向は一朝一夕で変わるものではない。原油や鉄鉱石に存在しない「草の根の買い」が価格を安定させる。４～６月期にかぎればインドで国民の大半を占める農家の収入が昨冬の不作で減少し、買いに勢いはなかった。中国の中央銀行、中国人民銀行は７月に 2009 年以来、６年ぶりに保有金の公表数量をこれまでの 1,054 トンから 1,658 トンに引き上げたものの、市場の見方は「想定より少ない」ととらえた。ヘッジファンドなどが金相場の下げシナリオを踏まえ、先物市場で売りを仕掛ける局面ならではの解釈だ。それでもロシアが 1,275 トンまで金準備を増やすなど新興国の中央銀行は準備資産として着実に金を積み増している。人民銀行はその後、さらに金準備を 18 トン増やしたと発表した。

欧州にも草の根の買い

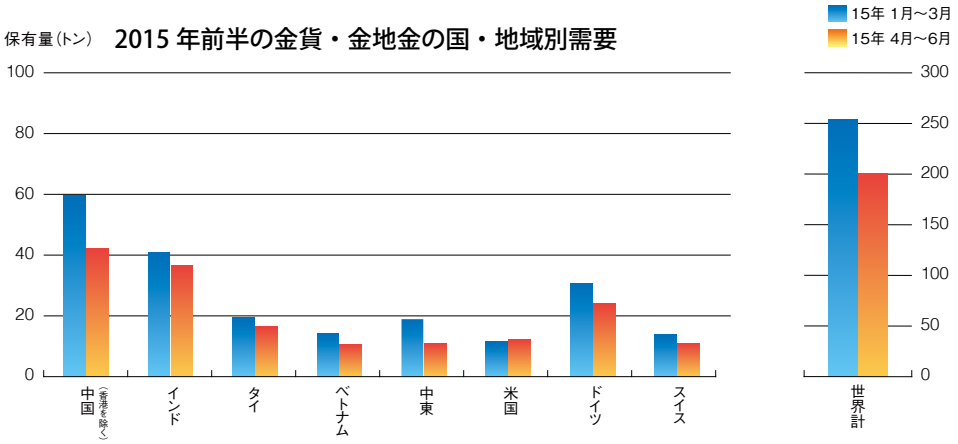
草の根の買いは新興国にかぎった話ではない。オーストリア造幣局の発表で、今年１～６月の「ウィーン金貨ハーモニー」の販売量は全世界で29万トロイオンスと前年同期に比べ37％も増加した。とりわけギリシャの財政問題に注目の集まった６月の販売量は前年同月の2.1倍に膨らんだ。日本の１～６月の販売量は11％減少したが、世界に目を向ければまったく違う光景が広がる。

とりわけ今年に入り、金地金・金貨の需要で目立つのがドイツだ。ワールド・ゴールド・カウンシル（ＷＧＣ）の調べで４～６月の需要は24.1トンと前年同期に比べて24％増加。欧州全体でも46.5トンと同19％増加した。ドイツの需要はタイやベトナムを上回り、世界２位のインドに迫る。１～６月の需要は54.9トンと年間に直せば100トンを超えた2014年を上回るペースだ。ドイツでは昔から人気のある金貨だけでなく、地金取引口座を通じた投資も伸びているという。第１次世界大戦直後に激しいインフレを経験したドイツは通貨の信認を重視し、2009年の憲法改正で財政の健全化を規定した。10年のギリシャを発端に財政・金融問題が浮上すると、不安にかられたドイツ国民の金買い意欲が強まった。

リーマン・ショック後に膨張したマネーは米国の金融政策の正常化で収縮局面に向かう。ＪＰモルガンが７月にまとめたリポートによれば、４～６月期に新興国から流出した投資マネーは1,200億ドルとリーマン・ショック以降で最大となった。今世紀に入って始まった国際商品と新興国の宴は終わりを告げたが、究極の資産としての金の役割は終わりそうにない。

金貨・地金需要はドイツなど欧州が堅調だ

IMF統計からワールド・ゴールド・カウンシルまとめ



KCGM社のフィミストン鉱区。長さ3.7km、幅1.5km、深さ650mの巨大な露天掘りは、まさに壮観。

協会設立35周年記念 オーストラリア訪問記
（オーストラリア金鉱山視察研修会）

一般社団法人 日本金地金流通協会設立 35 周年記念のオーストラリア（西オーストラリア州）視察研修会が 2015 年 4 月 24 日（金）から同 5 月 1 日（金）までの（前後の移動日 2 日を含む）8 日間の日程で実施された。田苗明協会会長以下参加総勢 17 名がパース造幣局のある西オーストラリア州の州都パースを起点に、その近郊さらに東北東 600 キロの砂漠地帯にある金鉱山の町、カルグーリー・ボールダー市にも足を延ばし、金関連施設の視察や現地管理者との質疑などを精力的にこなした。また、5 日目の夜には協会主催にて現地鉱山産業関係者を招いての懇親会が催され、大いに交流を深めることができた。地元のウェスタンバンドの他、パース在住のグループによる和太鼓演奏の企画があり、現地来訪者に非常に喜んでいただけた。ここでは、訪問した金関連施設の中で金鉱山 3 社について取り上げます。

風光明媚なパースだが近郊は砂漠地帯

まず羽田からシンガポール経由パースまでの所要時間は、乗り継ぎに要した 1 時間を含めて 13 時間余り。機中泊で到着したパースは、1827 年に英国人による開拓以来、天然資源の開発により発展を続ける西オーストラリア州の州都でスワン

マーケット・ストラテジィ・インスティテュート代表
金融・貴金属アナリスト
亀井 幸一郎（かめい こういちろう）

川沿いに展開するまさに風光明媚な街。かつて日本でも世界で最も美しい街、住みやすい街として紹介されたことがあるところ。市内の高台にあるキングス・パークからスワン川を望む眺望はまさに絶景。

今回のパース訪問の中心テーマは、我々が日々取り扱っている金の生産現場の視察と同国鉱山業界が置かれている現状を知ることだった。なかでも現場の視察は、訪問目的の中心に座るもので、まさに百聞は一見にしかず。鉱石の採掘現場から選鉱・砕石に始まる精錬工程を見る、まさに川上から川下まで時間を掛けてくまなく回る機会を得たのは、得難い体験だった。

最初の目的地はパース空港から国内便で 1 時間余り東北東に飛んだ（約 600 キロ）ところにあるカルグーリー・ボールダー市（以下カルグーリー）。ちなみに西オーストラリア州だけで日本の 7 倍の広さがあり、州面積の 90％は砂漠あるいは半砂漠とされ、水不足が悩みの種ということだった。そんな砂漠地帯で金、石炭そして鉄鉱石が発見され資源開発を基盤に街が広がったのが特徴の州でもある。オーストラリアは、2014 年時点で年間 273 トンを産出する世界第 2 位の産金国。その多く（約 70％）は西オーストラリア州で産出されている。

世界最大の露天掘り金鉱山（スーパー・ピット）

カルグーリーは、かつて砂漠で大きな金の塊（ナゲット）が発見され、ゴールド・ラッシュに沸いた街。訪れたのは世界第 1 位と 2 位の金鉱会社バリック（カナダ）とニューモント・マイニング（米国）のアジア地区関連子会社が出資するＫＣＧＭ社（Kalgoorlie Consolidated Gold Mines ）。街の中心部から 6 キロ余り離れ市街地の外れに隣接しているのが、ＫＣＧM社の世界最大の金の露天掘り鉱山（Super Pit) フィミストン鉱区。1893 年に採掘を始め、1989 年に先の北米大手鉱山 2 社が資本参加し大規模な露天掘り採掘が行われるようになった。ある程度の規模は想像していたのだが、やはり百聞は一見にしかず。鉱区の多くの部分を見渡せる場所に立った時に、以前夜間操業時（24 時間操業）にはスペースシャトルからも目視できると聞いたことがあり、その意味する規模が理解できた。長さ 3.7 キロ、幅 1.5 キロ、現時点で地表からの深さ 650 メートルまで採掘した、大きなすり鉢状の巨大な（まさに）谷が出現する。らせん状に鉱石運搬用の道路が谷底の採掘現場にまで伸び、発破を掛けて砕いた金鉱石を絶えず最大 270 トン積みのトラックで運び出す。この鉱区だけで 1,400 人が働くが、驚いたのはトラック運転手の 40％が女性とのことだった。女性と原住民アボリジニの人々の雇用促進を政府が推進しているとのことだった。

この鉱区では年間 80 万オンス（約 24 トン）の金を生産しているが、意外なほどに鉱石に含まれる金の含有量は低い。鉱石 1 トンあたり 2.6 グラムということだった。品位の低さで知られ

KCGM社スーパーピット
（巨大露天掘鉱）にて記念撮影

る南アでも５グラムとされるので、かなり低い。こうなると気になるのが生産コストだが、５日目に訪問しプレゼンを受けた「西オーストラリア州鉱物・エネルギー資源会議所」で聞いたところ、おおむねオンス（約 31.1 グラム）当たり 1,400 豪ドル（約 1,000 ドル）とのことだった。2015 年８月末時点の金価格は 1,132 ドルなので対ドルでの豪ドル安が、鉱山経営を楽にしているといえる。さてこの鉱区だが、４年後には現在の計画を見直し、その後は金価格を見て方針を決めるとのことだった。たしかに最新のデータ（GFMS ゴールド・サーベイ 2015 年 Q2 アップデイト版）では、2015 年 1－3 月期の同社の生産量は 3.8 トンとなっており、前年同期の 5.6 トンから 32％もの減少となっている。世界的にも鉱山生産量が 2014 年にピークを打ったとの見方（ゴールドマン・サックのレポート）があるが、その傾向が高まっているようだ。

精錬プラントの全施設を視察

KCGM 社視察の後は、ハンバーガーのランチを挟み、カルグーリー市内からバスで 30 分ほど走ったところにあるラ・マンチャ・リソーシーズ社を訪問。ここでは、２班に分かれそれぞれに担当者がつき現場の精錬プラント（選鉱・精錬の鉱石処理施設）の中に入っての視察となった。防護服に着替え防護メガネ、耳栓、手袋、ヘルメットのいでたちでプラント内の階段を上り、狭い通路を移動しながら現地の責任者の話を聞いて回った。隣接するホワイト・フォイル鉱山から運ばれた鉱石を数段階の物理的な粉砕から、さらに化学溶液を使った工程をへてミクロ単位まで小さくし、中間製品の金を採取する（ドーレ）。この工程をすべて視察したが、事前にプレゼンを受けた上で現場を見られたのは理解を促進する上で有効だった。なお、この視察は地元新聞「カルグーリー・マイナー」にも報じられることになった。最初の KCGM 社にも規模の大きな精錬プラントがあったが、車内から見るだけで、今回のように詳細の視察はあまりない機会であったようだ。

大規模発破の現場に遭遇

さらにパースに戻った６日目には、市内からバスで１時間半の郊外にあるニューモント・マ

ボディングトン社の鉱山での大規模な発破シーン。身体に伝わる重低音と振動は迫力そのもの。

西オーストラリア州政府
公営パース造幣局の外観

イニング傘下のボディングトン社（Bodington）の視察を行った。この鉱山は、オーストラリアには珍しい森の中にある鉱山だった。もちろん鉱山といっても山ではなく、ユーカリなどが生えた平地にある露天掘り鉱山で、採掘現場の規模はKCGM社を少し小さくしたもので、日本感覚では大規模鉱山。ここでも全員ヘルメットからメガネ、安全靴まで完全装備で他社と同様の精錬プラントは車内から、採掘現場は現場から1.2キロ離れたところにある小さな小屋からの見学となった。というのも、運よく我々が赴いた時間に大規模な発破の予定があり、それを見るために簡単な屋根だけの視認監視小屋で待機したことによる。すり鉢状に掘り進んだ途中のサッカー場10面以上はある平地の端から次々に噴煙が上がると同時に全体が爆発、その後重低音と振動が伝わってくる現場は迫力そのものだった。

ここではインドネシアの銅鉱山から転職されてきた日本人エンジニアの方が同行してくれたお蔭で非常にわかりやすく特徴と問題点を把握できた。総じていうと露天掘り鉱山は、品位の高い鉱脈は浅いところにあり、一般的な坑道を使いそれらを掘り尽くした後に低品位の鉱石を大規模に露天掘りするということだった。大量生産でこそ採算に合うという言葉が印象的だった。量を取るか質を取るかで社内でも議論があるようだ。ここでも鉱山寿命について尋ねたが、2030年がメドということだった。驚いたのは賃金の高さ。特にオーストラリアは高賃金で知られる（最低時間給20豪ドル）が、大卒の鉱山エンジニアの初任給が1,000万円以上ということだった。そのため金価格が下がる中でリストラが進んでいるということだった。環境基準が厳しくなっており、鉱区に巨大な湖様の廃水ダムを設け厳重に管理していた。

今回の視察旅行では、この他にもパース造幣局にて以上の鉱山で初期の地金（ドーレ）まで加工されたものを最終精錬する工程も見学し、経営幹部の方から現在のビジネスの状況や今後の見通しなどもうかがった。

一般には知る機会のない生産現場での見聞は、今後の我々のビジネスに厚みをもたらしてくれそうだ。また参加者間での親交も深まり、非常に有意義な研修旅行となった。

需給動向をベースに プラチナ市場を読む

Toshima & Associates代表
豊島 逸夫（としまいつお）

金とプラチナの価格変動チャート
2005年１月４日～ 2015年８月31日

顧客の目線に立てば 金もプラチナも同じ貴金属

筆者は、金の調査機関ワールド・ゴールド・カウンシル（WGC）に長く勤めていたので、なにかと「金のサポーター、ライバルはプラチナ」と業界内では見なされてきた。しかし、実は、スイス銀行の貴金属トレーダー時代にはプラチナ売買で実績をあげ、銀行を辞めるときに会社側からの記念品として、プラチナのメダル（ノーブル・コイン）をもらったほどなのだ。以前、日経の「私のこの一品」というコラムに出たときにも、このプラチナ・コインを選んだほど。ただ、当時のWGC 社内では、ライバル商品を持ってメディアに出るなど、「愛社精神に欠ける」などと批判されたものだ。しかし、筆者は、金もプラチナも顧客から見れば同じ貴金属。そんな狭い了見では、貴金属マーケットのパイは大きくならない、との思いが強かった。そもそも、金とプラチナをライバル扱いすることこそ、「業界の常識、世間の非常識」の典型的な例だ。そこで、組織の代表になったとき、まっさきに、金とプラチナが別々に開催していたジュエリーフェアを統一した。当時のプラチナ・ギルド代表と意気投合したからだ。

今は独立して自由な身ゆえ、今回、本誌に寄稿依頼があったとき、自ら志願して、プラチナ原稿を書くことにした。プラチナがセミナーでの質問も検索ワードの出現率も高いからだ。

長期的に見るならば プラチナの消費量は増加

さて、そのプラチナだが、近年は、金より価格が安い局面も頻発して、プラチナカードよりゴールドカードのステータスのほうが高いのか、などと揶揄されたりする。

基本的には、プラチナのほうが希少性ははるかに高いので、値段も高くて当たり前だ。それが、逆ザヤになるのは、ＮＹプラチナ先物市場での投機的売買に原因がある。

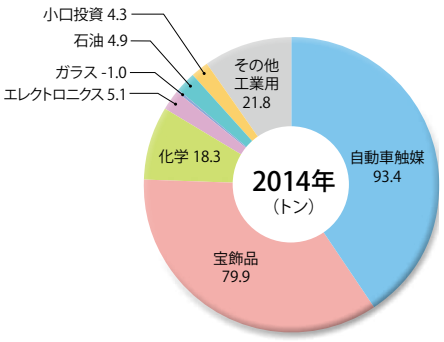
彼らがプラチナに投機的売り攻勢をかけるときの口実は、だいたい、欧州経済不安か、生産国南アの産出量増加である。

プラチナ需要の多くが、欧州のディーゼル車の排気ガス清浄化触媒に使われるので、ギリシャ問題を構造的にかかえ、失業率も 11％を超える欧州経済の不安を語るのは簡単だ。たしかにギリシャ債務問題はユーロが抱えるアキレス腱であるが、欧州経済全体は徐々に改善の傾向が顕著だ。2015年８月に世界同時株安の危機的状態が勃発したとき、逃避通貨として買われたのは、もっぱらユーロであった。今や、安全通貨はユーロなどと言われたものだ。ギリシャ危機まっただ中のときには考えられなかったユーロの姿といえる。

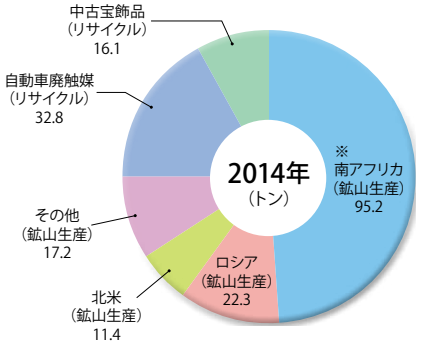
長期的に、欧州での自動車生産も、堅固な増加が見込まれ、プラチナ消費量も増えてゆくと思われる。

なお、ディーゼル車には、汚れた排ガスを出すというイメージがつきまとうが、これは古い型の

プラチナ需要



プラチナ供給



※長期間の鉱山ストライキによって、南アフリカの生産性は目標より40トン強落ち込んだ。

自動車の話。今は改善が進んでいる。更に、今後は、中国が自動車排ガス対策を強めてくるので、新たなプラチナ需要が増加してゆくだろう。

南アのプラチナ生産者は 厳しい状況下に置かれている

いっぽう、価格の主たる変動要因は、供給サイドにある。生産の約８割が南アおよび周辺諸国に偏在する構造は変わらないので、生産障害が先物市場で買い要因として囃されやすい。そ

の南アの政情は相変わらず不安定だ。否、アパルトヘイト撤廃後、悪化の一途と言っても過言ではない。2016年に向けて、鉱山労働者賃金交渉がストライキに発展する可能性が少なくない。生産障害要因としては、慢性的電力不足、人種・部族・移民労働者の間のもめごとが絶えないことがある。AMCU（Association of Mineworkers and Construction Union：鉱山労働者・建設組合連合）は穏健化したようだが、賃金要求には厳しく、交渉妥結までの道は長くなろう。但し、南アランド安による生産コストアップを埋め合わせるために、プラチナ価格低迷の中でも、増産せねばならぬところに、今のプラチナ生産者のかかえるジレンマがある。加えて、二次的供給源のリサイクルも宝飾・自動車触媒両面から湧水のごとく出てくる。従って、金価格より安いという逆ザヤ状態は脱しても、価格上昇ペースは緩やかとなろう。

プラチナ価格は、市場規模が小さいために、ボラティリティーは高い状況が続くだろう。投資手段として、ＥＴＦが開発され、残高も年間生産量の半分近い量に達している。そして、金ＥＴＦは大量資金流出が目立つが、プラチナＥＴＦは残高がそれほど減らない傾向がある。日本では、金ＥＴＦよりプラチナＥＴＦのほうが売れるくらいだ。プラチナ需要構成を見るに、宝飾が伸び悩み、その分をＥＴＦ需要が補っている構図だ。米国の機関投資家セミナーでは資産としてのプラチナが議論されている。

中長期的にプラチナ価格は緩やかに上昇すると見る

今後の需要見通しは、主力の自動車触媒が、排ガス規制厳格化という追い風を受けているが、いっぽうで、省プラチナ技術の開発も進んでいる。

思い起こせば、リーマンショックをはさみ、プラチナ価格は、2,300ドル台に暴騰後、800ドル台まで暴落した歴史がある。この年には、前半に南ア電力公社エスコムの電力供給が滞り、生産面から価格上昇圧力がかかった。しかし、年後半に勃発したリーマンショックにより、米国自動車メーカーのビッグ３（ＧＭ，フォード、クライスラー）の経営が悪化して、プラチナ最大の需要分野が危機的状況に陥ったのだ。

2020年にかけて、プラチナ価格のベースシナリオとしては、1,500ドルへの緩やかな上昇を予想する。リスクシナリオとしては、増産、省プラチナ新技術開発などで、価格低迷が長引く可能性もひめる。逆に、南アの予期せざる大規模生産障害で2,000ドル程度に跳ねるケースも絵空事とはいえないのがプラチナ市場の特徴だ。

国内では、円安傾向が続き、円建てプラチナ価格には、為替面から上昇圧力がかかりやすい。東京オリンピックが開催される2020年にはグラム7,000円台というのが私の見立てである。前提としてドル円130円、ドル建てプラチナ価格1,600ドル。ドル円は将来140円まで見ているが、控えめに抑えた。

ジョン万次郎とゴールドラッシュ

鍋島 高明（なべしま たかはる）

1936年高知県出身、59年早大政経卒、同年日本経済新聞入社、商品部次長、編集委員、日経総合販売を経て、97年市場経済研究所代表取締役

1848年（嘉永元年）、米カリフォルニアで金鉱が発見されるや地球上は大騒動となる。マルクスは「コロンブスの新大陸発見よりも一粒の金鉱石発見の方が大事件」とし、米国が世界最強国へ疾駆するエネルギー源になったと指摘する。

鎖国日本はまだ深い眠りにある。世界中から冒険心に燃える若者が集結、1849年カリフォルニアに入った猛者たちは「フォーティーナイナーズ」（49年野郎）と呼ばれる。

カリフォルニアの人口は1年で10倍に膨れ上がるが、日本からはだれもやってこない。

たった1人、土佐の漁師、ジョン万次郎（本名中浜万次郎、1827～98）が東部のマサチューセッツ州から駆け付けた。万次郎は14歳の時、出漁中に遭難したが、アメリカの捕鯨船に救われ、ホイットフィールド船長宅に住み、専門学校で測量術や航海術を学んだ。

当時、アメリカではフォスターの「おお、スザンナ」という歌がはやった。この替え歌が金鉱を求めてカリフォルニアに向かう冒険野郎の応援歌ともなった。

「おいらは山を堀り　川をからっぽにしてみせる。おお、スザンナ、泣くじゃない。洗面器を背負って　おいらはカリフォルニアに行くさ」

幌馬車を駆って西に一直線の陸路は盗賊などが待ち伏せしていて危険が一杯、急がば回れと万次郎は海路、南米ホーン岬回りで半年かけて金山にたどり着く。そこは黄金郷どころか、修羅場であった。後の史家が書いている。「党を組み、財貨を奪い、人を殺し、危険言うべからず。人皆拳銃を懐中になして往来す」。

まさに欲望渦巻く無法地帯。万次郎は2カ月間で1,300ドルの大金を手にした。しかし、永くいるところではない。相棒に700ドル渡し、「われは600ダラーありゃあええきに、おまんは700ダラー持って去（い）ね」（津本陽著「椿と花水木」）といってカリフォルニアを去る。万次郎はホノルルで土佐の漂流仲間たちと会い、日本へ。

船長には手紙を書いた。

「農場に残してきた金貨、銀貨、衣類などは有益なことに役立てて下さい。本と文房具は友人たちに分けてやって下さい」。

帰国後の万次郎は幕府に登用され、維新後は開成学校（東大の前身）の教授となり、明治3年訪米の際、21年ぶりに船長と再会を果たす。船長宅は日米友好のシンボルとして修復、一般に公開されている。

写真で見る驚きのゴールド②

撮影：児島 一伸

ベトナム第3の都市ダナンには世界でも珍しいドラゴン橋がある。夜になるとドラゴンが黄金に輝き、毎週土日、21時になると、口から火を噴き、水を吐くパフォーマンスで見物客観光客を魅了。

東京・浅草寺で、本尊示現会と菊供養会の年2回奉演される「金龍の舞」。

クアラルンプールのバトゥ洞窟と、全身金箔で覆われた高さ43メートルのムルガン像。

熊本県・山鹿市の夏祭り。「金灯籠（かなどうろう）」を頭に
載せた千人の女性たちによる幻想的な舞い。

韓国ソウル動物園が飼育する金色の冠羽をもった黄金キンケイ。

尾張藩第七代藩主 徳川宗春公を乗せた、
名古屋市・栄にある金色に輝く「開運ポスト宗春」。

日本三景の一つ宮島（厳島）、フェリー乗り場に立つ「舞楽・蘭陵王」像。

JR九州が運行する「或る列車」。金色に輝く豪華列車でスイーツを楽しむ。

プラチナは20億年の時を経て地球から贈られた宝物

イベントなどでプラチナインゴットを手にした瞬間、ズシリと来る重量感は、なんだか自然と笑みがこぼれてしまいます。そんなプラチナは、宝飾品のみならず車の触媒や燃料電池など社会生活でも活躍しています。

プラチナの有史以来の総産出量は、金の1/25程度なのでとても貴重なお宝です。しかも、プラチナ鉱床は限られた地域にしか存在せず、過去10年間の生産量世界シェアは、南アフリカがダントツの約75%で、ロシア約14%、ジンバブエ約4%、カナダ約3%、米国約2%と続き、これらの5ヶ国で世界シェアの98%を占めています。それだけ希少でありかつ偏在しているプラチナ鉱床がどのようにして出来たか、皆さんはご存知ですか？

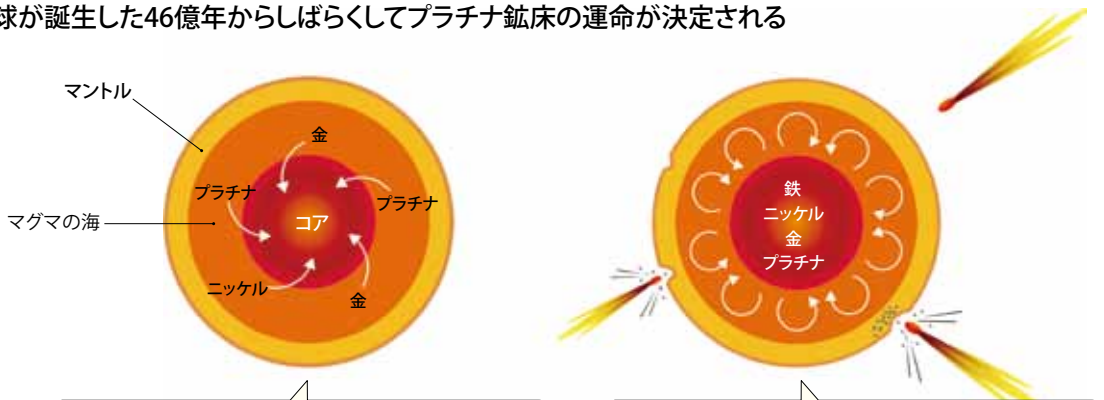
よくある説明として、メディアでは単に「プラチナは地下で形成されます」とだけ表現し、インターネット上では「隕石の落下によってプラチナ鉱床が形成され、鉱石自体は隕石の残骸である」などとする都市伝説まで存在するありさまです。しかしこれらは何れの場合も言葉足らずで、学術的には正確ではありません。

そこで、皆様を「地球上でなぜプラチナは希少なのか？」そして、「大規模鉱床がなぜ限られた地域に偏在しているのか？」という謎を解き明かす、プラチナ鉱床の〈ルーツ〉を探る旅にご案内いたします。

プラチナが地球上で希薄な理由

希薄化を招いた第1の要因は、宇宙存在度の低さにあります。鉄よりも軽い元素の起源は、太陽のような恒星内部の核融合反応で出来るのですが、プラチナのような鉄よりもかなり重い元素は、恒星内部で作られた元素が中性子星の合体や超新星爆発といった特殊な天体イベントで重さを増して誕生します。そのため、一般に重い元素ほど宇

地球が誕生した46億年からしばらくしてプラチナ鉱床の運命が決定される



地球誕生後から1億年かけて作り出された「コア」と「マグマの海（後のマントル）」。プラチナをはじめとする多くの貴金属に富むコアとそれらに枯渇したマントルに、この時点で分離する。

地球誕生後、5億年して大規模な隕石のシャワー（後期重爆撃期）に見舞われる。貴金属（プラチナ、金など）が枯渇したマントル上部に、隕石シャワーによってそれらの金属が少し追加される。

海洋火山学者
熊本大学准教授
横瀬 久芳（よこせ ひさよし）

新潟大学理学部地質鉱物学科を卒業後、同大学院理学研究科終了。1990年、岡山大学にて博士号を取得。その後の研究とフィールドワークから、「海洋学」の必要性を痛感し、日本国内で初めてこの分野を開拓。地球のプレートが沈み込む場所、すなわち日本列島周辺の海底鉱物資源の可能性を研究する。2011年、奄美大島沖の海底火山からレアメタルに富む鉱石を発見。2013年秋にはトカラ列島における海洋探査が「NHKスペシャル」で特集される。熊本大学で主催する「はじめて学ぶ海洋学」は、入学者の6割が受講するマンモス講義となっている。著書に「ジパングの海～資源大国ニッポンへの道」（講談社＋α新書）、「はじめて学ぶ海洋学（9月発売）」（朝倉書店）がある。

宙存在度は激減します。このようにして宇宙空間で作り出された元素群が星間物質となって漂い、地球を含めた太陽系の原材料となったのです。そして、約 45.7 億年前に太陽系の平均的な物質である始原的隕石（コンドライト）と共に、プラチナの旅はスタートします。

希薄化を促進した第 2 の要因は、地球誕生初期のコア形成にあります。太陽系を漂っていた星間物質は次第に塊となり大型化しました（隕石→小天体→惑星、あるいは太陽へ）。地球は、太陽系が発生してから約 1 億年を経て、ほぼ現在の大きさに達しました。この時点では、地球はドロドロに溶けた火の玉でした。重い液体状の鉄密集部分は、重力の作用で地球中心部のコアに集まり、その外側に形成された「マグマの海」から分離しました。

プラチナは鉄と非常に仲の良い親鉄元素の一員で、高温の状態では鉄に吸収されます。そのため、液体状のマグマの海に存在していたプラチナは、コアに向かう液体の鉄の道連れとなって地球深部に沈んでしまったのです。そして、プラチナが連れ去られたマグマの海では、その濃度は 1/10,000 に低下しました。そうです、液体状の鉄の分離は、コア以外の部分におけるプラチナ濃度の低下に拍車をかけたのです。

そんな天体内部のコアの残骸が、様々な種類の隕石の中で約 5 %の出現頻度を持つ鉄隕石です。ですから、鉄隕石にはプラチナをはじめとする貴金属が濃縮しており、大量回収できれば新たなビジネスチャンスに発展します（写真 1）。

（写真 1）

小天体のコアを形成していたと考えられる鉄隕石：美しい格子状のウィドマンシュテッテン構造が顕著なギベオン隕石（左）と大気圏突入時に形成された黒っぽい溶融殻を持つオッデサ隕石（右）。これらのように、鉄隕石の中のオクタヘドライトには、2g／t 程度の金、白金、イリジウムなどの貴金属が含まれている場合が多い。

さて、隕石の衝突も一段落し、さらに数千万年の時を経て地球が冷え始め、マグマの海も次第に固体のマントルへと変貌しました。そして、ついに 44 億年前の地表に初めて海が出現し、地殻も出来ました。ところが、冷却を続ける 41 億～38 億年前の地球に、いっとき影を潜めていた隕石の衝突が再開し、史上最後の大量隕石シャワーが降り注ぎました。すでに冷えて固体となった地殻やマントルは、高速で地球に衝突してくる隕石群とともに粉々に破壊され、撒き散らされたのです。以前と違って、固体のマントルでは、追加された鉄が塊を作ってコアに沈むことは出来ません。そのため、現在のマントル総重量の 0.5％にあたる隕石成分が、マントル上部にのみ追加され、プラチナ濃度も少しだけ上昇しました。つまり、私たちが現在活用しているプラチナの大部分は、コアへの道連れを逃れたプラチナと約40億年前に新規参入したプラチナを原材料としています。

現代のマントルプルーム起源の玄武岩溶岩。ハワイ島キラウエア火山のプウ・オオ火口からは溶岩の流出が1983年から現在まで継続しており、ハワイ島を拡大し続けている。

謎を解く鍵は超巨大マグマ溜

約40億年前に新たにプラチナが加わったとはいえ、依然として超希薄である事には変わりません。プラチナがどのぐらい希薄かというと、地殻中では約0.005g／t程度です。ちなみに銅なら55g／tですから、いかに希薄か分かります。もしも鉱山会社がプラチナの採掘に着手するならば、通常の1,000倍濃縮した鉱石が多量に存在する事が絶対条件となります。

採掘可能な深度範囲において、初期地球の液体の鉄のように「プラチナを道連れにできる物質」と「巨大なマグマ溜」があれば、相当量のプラチナを選択的に掻き集める事が出来ます。じつは、マグマ中に出来る硫化物メルトが、初期地球の液体の鉄と同じようにプラチナを道連れにでき、1万～10万倍に濃縮する役割を果たしてくれます。この硫化物メルトは、高温のマグマ中に硫黄が濃縮すると、マグマとは別の高密度（マグマの３倍弱）の液体として分離します。高密度の硫化物メルトは、マグマ溜の底へ沈みながらプラチナを効率よく回収できる優れものなのです。

とはいえ、圧倒的に希薄なプラチナを、採鉱対象にするためには、莫大なマグマから掻き集める必要があり、そんなマグマを発生させるためには超高温のマントルがもう1つの必要条件です。この条件に合致するのは、①短寿命の放射性元素の活発な発熱によって、現在よりも300℃程度高温だった30億－20億年前の若い地球の浅いマントルの場合か、②コア近傍（深さ2,900km）の高温深部マントルが、マグマを生産できる浅部へプルーム状（※）に上昇した場合のいずれかです。

前者の例は、南アフリカのブッシュフェルト岩体の鉱床群で、東西520km、南北270km、厚さ7.6kmに達する超巨大マグマ溜（広さは日本の国土の37％に相当）で作り出されました。一方、後者の例は、ロシアのノリリスク－タルナフ鉱床で、2億5千万年前に発生した世界一巨大な洪水玄武岩（広さ250万km^2：日本国土の6.6倍）を噴出したマグマ溜で形成されました。

このように、特殊な地質環境が揃った場合にだけプラチナ鉱床が成立しています。ですから、30億－20億年前の若い地球の痕跡がかろうじて残っているアフリカ南部・インド・南極北部・オーストラリア西部の一帯や北米大陸北部・グリーンランド一帯の地質体にのみ現れた超巨大なマグマ溜が探鉱対象として偏在するわけです。

現在のような冷たい地球では、高温で大規模なマグマ溜を作り出せないため、新しい時代のプラチナ鉱床は存在しません。このようにルーツを辿ると、私たちが手にするプラチナの大部分が、約20億年前という期間限定の地球から贈られた宝物だと分かります。

プラチナと同様に金のルーツも中々面白いのですが、今回は紙面の関係で割愛しました。またの機会にでもご紹介しましょう。

（※）プルームとは、マントル内の大規模な対流運動のこと。ここではキノコ形状を指す。

江戸のゴールドラッシュ生みの親

おかもと　まさふさ
岡本 匡房

1964年慶應大学経済学部卒、同年日本経済新聞社入社、日経産業消費研究所商品研究部長兼日経ゴールドレポート発行人。現市場経済研究所主幹。

江戸時代初期、日本は秀吉の時代をもしのぐゴールドラッシュに沸きました。それを演出した男、それが大久保長安です。長安は大久保姓を名乗っていましたが、大久保彦左衛門で知られた徳川譜代の名門大久保一族とは縁もゆかりもなく、前身は甲州の猿楽師だったと言われています。それが甲州で金の採掘・精錬技術を取得、徳川家康に抜擢されました。

長安はまず、世界遺産にもなった石見銀山で大きな成果を上げました。石見銀山は名称こそ「銀山」ですが、「実際は金も銅も産出したのではないか」（大田市石見銀山課）と見られています。

ちなみに、石見銀山はいくつもの採掘場があり、最大のものは大久保間歩（＝坑道）といい、長安が馬に乗って槍を担いで入ったという伝承があります。ただ、環境が劣悪で、鉱夫が三〇歳まで生きたらお祝いしたとか。

この功績が認められ、長安は佐渡金山や伊豆の金山の採掘を任されます。長安の努力もあって佐渡金山の金採掘量は急増、家康を狂喜させました。佐渡は遠く平安時代から金が産出したと言われていますが、当時は砂金で、産出量が急増したのは相川金山が開発されてからです。もっとも、佐渡金山といっても数十カ所で採掘されました。採掘量は延べ七六トン。これは菱刈金山が出るまで日本最大の産出量でした。

長安は贅沢三昧、大名並みの暮らしをしていたと言われています。だが、長安が亡くなると、子孫の運命は暗転します。「金を横領した」との咎で、息子七人はすべて処刑されたのです。

「長安の屋敷には数十万両の金がうなっていた」とか、「床下に金が隠されていた」など各説がありますが、真偽は不明です。実際は「もう役目が終わったとして粛正された」との見方が有力です。

そのとばっちりで、大久保一族の宗主小田原城主の大久保忠隣も改易されてしまいます。これは大久保一族の勢力を削ごうとした家康の謀臣本多正信と子息正純の陰謀だったというのが定説です。

しかし、家康が真実を知らなかったはずがありません。主役は家康だったのでしょう。その程度の冷酷さがないと天下は保ち得ないのです。

永遠の妖精オードリーの光と影

米国ハリウッドがもっとも光り輝いていたと云われる黄金の1950年代。
ゴージャスなマリリンと対照的に、シンプルな美で観客を魅了した女優がいました。
自立した女性の憧れ的存在、それが永遠の妖精オードリー・ヘップバーン。

世界に名匠と呼ばれる映画監督は数々います。しかし、ビリー・ワイルダーほど観客を楽しませる才能に恵まれた映画作家は、滅多にいるものではありません。「私のめざすところはただひとつ、観客を楽しませること」という言葉からも分かる通り、人を楽しませる娯楽映画に生涯を捧げた職人気質の脚本家であり映画監督でした。

熱狂的なファンは多く、2012年度アカデミー賞で主要部門を独占した「アーティスト」の監督ミシェル・アザナヴィシウスなどは、受賞スピーチをこう締めくくったほどです。「最後に三人にお礼を言いたい。ビリー・ワイルダー、ビリー・ワイルダー、ビリー・ワイルダー！」。日本にも、映画フリークとして知られた落語家・立川談志、イラストレーターであり映画監督でもある和田誠など、ファンは大勢います。

そのビリー・ワイルダーが起用した女優に、前回のマリリン・モンロー、そして今回ここで取り上げるオードリー・ヘップバーンがいます。

オードリーと云えば、ハリウッド・デビュー作となった「ローマの休日」での可憐さがあまりに衝撃的で、次回作となった「麗しのサブリナ」はサブリナ・パンツの世界的流行を生んだものの、割を食った感は否めません。けれど、相手役ウィリアム・ホールデンやハンフリー・ボガードとの恋の駆け引きは、じつにコミカルで、ウィットに富み、ワイルダーならではの世界が展開します。パリ料理学校での２年間の留学生活を終えて帰国したサブリナの見違えるような美しさも、筆舌に尽くし難しく、必見に値します。

オードリーはその後も、「戦争と平和」「昼下がりの情事」「ティファニーで朝食を」「暗くなるまで待って」など数々の作品に出演。そしてアカデミー賞、エミー賞、グラミー賞、トニー賞の受賞経験を持つ数少ない一人ともなりました。それにも関わらず、後半生は映画界から少しずつ離れ、ユニセフ（国際連合児童基金）の仕事に生涯を捧げるようになったことで知られています。

第二次大戦中の少女時代、栄養失調に苦しみ、重度の貧血や呼吸器障害に悩まされた経験が、彼女を駆り立てたに違いありません。「何としても避けたかったのは、人生を振り返ったとき、映画しかないという事態です」と語っています。「子どもより大切な存在なんて、あるかしら？」とも語っています。オードリーが今なお輝きを失わない理由は、ここにあるのかも知れません。

オードリーのイラストは、ユーサフ・カーシュ氏のポートレート写真を参考に描き起こしたものです。

Audrey Hepburn

オードリー・ヘップバーン（Audrey Hepburn、1929年5月4日–1993年1月20日）、ベルギーのブリュッセルに誕生。幼少期はベルギー、オランダ、イングランドで過ごす。幼くしてバレーを始め、第二次大戦中には、オランダの反ドイツ・レジスタンスのために、秘密裏に公演を行って資金稼ぎに協力していたとされる。数々の映画、舞台に出演し、今なお「永遠の妖精」として世界的な人気を誇る。

今、静かに注目される金

ワールド ゴールド カウンシル
日本代表
森田 隆大（もりた たかひろ）

金価格はピークから低下したものの、金の役割に対する関心・期待はむしろ上昇している。中国では、人民元の国際化を金で後押しする議論が行われ、シルクロード金投資基金も設立された。インドでは、金の金融システムへの取り入れや金価格リンク国債（Sovereign Gold Bond）の発行が決定された。トルコでは、市中銀行の自己資本算出に金を含めることを規制当局が承認した。ドイツでは、ユーロ圏の不確実性を受け金需要が急増した。ロシアでは、中央銀行が金保有を大幅に増やした。日本では、金を運用に取り入れた企業年金基金数が持続的に拡大した。このように、金は静かにその存在感を発揮している。

金は投資において様々な役割を担う事ができる（図表 1 参照）。そのひとつが分散効果である。歴史的・文化的な背景が購入動機を形成する需要家が金市場の大半を占めるため、金価格は経済・政治動向の影響を受けやすい多くの金融資産との相関が低く、投資におけるリスク源泉の分散に寄与することができる。また、金は他のコモディティと比べ産業用の需要が低く、景気循環との連動性も弱い。こうした特性から、金は伝統的資産（株式・債券等）が良好なパフォーマンスをあげる平常時だけでなく、金融市場の混乱期においても投資分散効果を発揮することが確認されている。実際、リーマンショック時、多くの資産が連動して暴落する中、金はすぐに価格が回復し、他資産と異なる動きを示した。

米国経済の安定性、欧州債務問題、中国経済の失速、地政学リスクの上昇など、投資環境は未だ不確実性の中にある。日本においても、経済成長、産業構造、少子高齢化、年金問題、財政状況、国

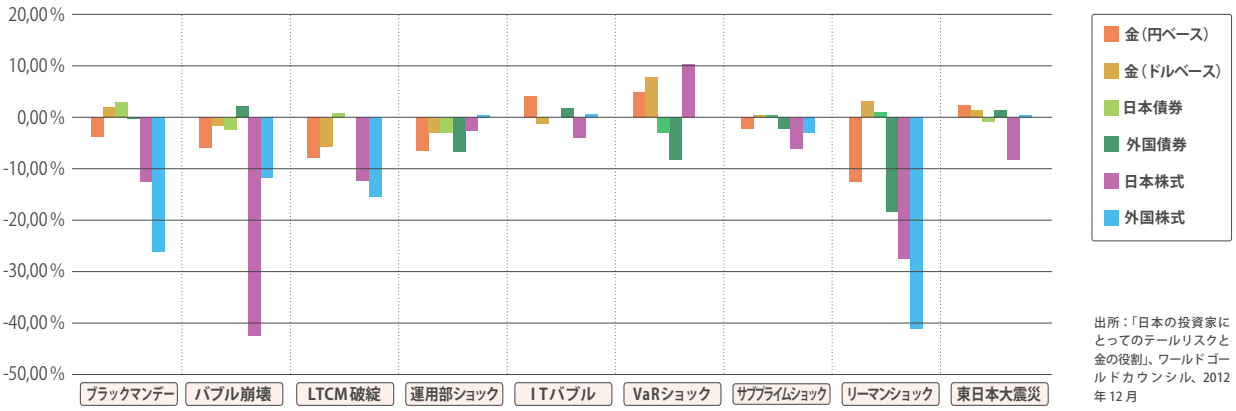
様々なリスク要素	金の特有性
全体のボラティリティ	主要資産との低い相関
テールリスク	テールリスクのヘッジ効果
インフレリスク	実物資産
信用リスク	信用リスクのない資産
通貨リスク	究極の通貨、通貨分散
流動性リスク	高い流動性
カウンターパーティ・リスク	カウンターパーティ・リスクなし
オペレーショナル・リスク	明瞭な仕組み
価格の透明性	一物一価

（図表 1）

債の信用力などに対する懸念が増大している。さらに、近年において、金融市場のパフォーマンスが大幅に下落するイベントが発生する頻度と規模が拡大している。テールリスクあるいはテールイベントという言葉が、メディア等でも頻繁に登場するようになった。テールリスクは一般的に発生確率は非常に低いものの、発生した時には深刻な損失をもたらすことを意味し、「ブラックスワン・リスク」と呼ばれることもある。こうしたシステミック・リスクに対するヘッジ機能として金は役に立つ。

例えば、日本の投資家にとってテールイベントとして定義できる、ブラックマンデー（1987年）、バブル崩壊（1990年）、ＬＴＣＭ破綻危機（1998年）、運用部ショック（1998年後半～1999年初め）、ＩＴバブルの崩壊（2000年）、ＶａＲショック（2003年）、サブプライムショック（2007年）、リーマンショック（2008年）、東日本大震災（2011年）において、金は伝統的な資産である日本株式、日本債券、外国株式、外国債券等と比較して、圧倒的なパフォーマンスを示している（図表２参

テールリスク発生時の伝統的資産と金のパフォーマンス　（図表 2）



出所：「日本の投資家にとってのテールリスクと金の役割」、ワールドゴールドカウンシル、2012 年 12 月

照）。９つのテールイベントの合計パフォーマンスは、日本株式の -101.8%、日本債券の -0.1%、海外株式の -92.0%、海外債券の -26.4% に対し、ドルベースの金は 7.3%、円ベースの金は -23.4% である。また、多くの世界的なテールイベントにおいて、金はオルタナ資産であるヘッジファンド、プライベート・エクイティ、不動産等に比べかなり良好なパフォーマンスをあげていることも確認されている。さらに、テールリスクイベント発生時に多くの金融商品は相関を高めて大きく下落する傾向にあるが、金と他資産の相関係数はむしろ低下することがしばしば観察されている。こうしたことから、投資ポートフォリオの中に金を組み入れることによって、テールリスク発生時の損失を抑制できる効果があることが分かる。

テールイベント発生時には、流動性リスクや信用リスクなども極端に大きくなり、金はこうしたリスクに対しても力を発揮する。リーマンショック時において、一部の伝統的資産の流動性が著しく低下する中、金市場は極めて高い流動性を維持した。顧客からの解約に応じる資金を捻出するために、ヘッジファンドが金を売却して手当てしたことはよく知られている。また、金は発行体がなく信用リスクもカウンターパーティ・リスク（※）も持たない金融資産であるため、資産価値がゼロになる危険性はなく、富を保全する資産の中核となりうる特性を備えている。

また、金は実物資産としての特性により、インフレヘッジ機能が働くと期待される。その他にも、金は発行体がなく信用リスクを持たない金融資産として、ソブリンリスク、地政学リスクなどの発生時に「質の逃避先」として利用されている。さらに、無国籍通貨である金は世界の主要通貨、特に米ドルと逆相関の関係を保持しているため、通貨ヘッジの手段としても使える。

金は投資における様々なリスクに対するヘッジの役割を担うことができ、このような資産は他に存在しない。不確実性が続く環境の中、多様なリスクに耐えられ安定したパフォーマンスを確保するためにも、古くて新しい資産である金の組み入れは一つの選択肢であろう。金が静かに注目される理由はここにある。

（※）取引の相手方（カウンターパーティ）が破綻するなどして、契約が履行されずに損失を被るリスク。

2014年の世界の金の供給と需要

金市場は 2013 年に荒れたものの、昨年は安定し、主に需給状況を反映して調整相場となった。米連邦準備制度理事会の量的緩和策が終了し、市場の注目が利上げ判断と米ドル高に移行したことが引き続き金相場を動かす要因となった。

ドル建て金価格は軟調に推移。背景には、資産クラスとしての金の魅力の低減、金融機関のシステミック・リスクの緩和、低インフレの持続があった。もっとも、米国以外では状況が異なり、欧州は 2015 年になってついに量的緩和策に踏み切り、新興国と資源国では景気が失速し、多くの通貨がドルに対して下落した。

過去 24 カ月間にわたる金相場の下落は供給面にも影響を与え、2014 年の中古金スクラップ供給量はピークを付けた 2009 年の 1,728 トンから 1,125 トンまで落ち込んだが、鉱山生産量は 3,133 トンとなって 2.3％増加した。背景には、減損費用の減少を主因として産金コストが 25％減の 1,314 ドル /oz まで低下したことがあり、減損費用を除くコストも、為替相場の動向が追い風となったことと低コストの新規鉱山が本格稼働したことを受けて 2.3％減の 1,208 ドル /oz にとどまった。また、処理済み鉱石の平均品位が記録をとり始めた 2000 年以来初めて上昇。これは 1970 年代に遡っても初めてのことであるとみられる。

他方、現物需要は 2013 年の行き過ぎが 2014 年に是正された。重要なのは、以前から変わらないテーマもまだあるということである。特に、高品位の宝飾品に代わって 18 金の宝飾品の購入量が増加していることが挙げられる。宝飾品市場より不安定な金地金市場（正味消費量で測定）では、金投資の減少によって需要が予想どおりに減少した。もっとも、金投資は 2007年の 53 億ドルに対して 340 億ドルと推定され、金融危機以前の水準をはるかに上回っている。コイン市場でも同

◆世界の金の供給と需要の推移

単位：トン

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
供給	鉱山生産量	2,561	2,496	2,499	2,429	2,612	2,742	2,846	2,875	3,061	3,133
	中古金スクラップ	903	1,133	1,006	1,352	1,728	1,713	1,675	1,677	1,287	1,125
	正味生産者ヘッジ	-92	-434	-432	-357	-234	-106	18	-40	-39	103
	供給合計量	**3,372**	**3,195**	**3,072**	**3,424**	**4,106**	**4,349**	**4,539**	**4,513**	**4,310**	**4,362**
需要	宝飾品	2,722	2,302	2,426	2,308	1,819	2,033	2,034	2,008	2,439	2,213
	工業用加工量	449	480	487	471	422	476	468	426	419	400
	エレクトロニクス	294	325	331	318	283	333	330	295	289	279
	歯科・医療	62	61	58	56	53	48	43	39	36	34
	その他の工業用	92	94	98	97	86	95	95	92	93	87
	公的部門の正味需要	-663	-365	-484	-235	-34	77	457	544	409	466
	小口投資	416	428	436	916	830	1,221	1,556	1,343	1,775	1,079
	金地金	261	236	236	659	548	934	1,230	1,039	1,394	829
	コイン	155	192	200	257	283	287	326	304	380	251
	現物需要	**2,923**	**2,845**	**2,864**	**3,460**	**3,038**	**3,807**	**4,515**	**4,321**	**5,041**	**4,158**
	現物の過不足	**448**	**350**	**208**	**-36**	**1,068**	**542**	**25**	**192**	**-732**	**204**
	ETFの在庫構築	208	260	253	321	623	382	185	279	-880	-160
	取引所の在庫構築	29	32	-10	34	39	54	-6	-10	-98	1
	ネットバランス	**212**	**58**	**-35**	**-391**	**406**	**106**	**-154**	**-78**	**246**	**363**
金価格（ロンドン値決・午後、米ドル/オンス）		**444.45**	**603.77**	**695.39**	**871.96**	**972.35**	**1,224.52**	**1,571.52**	**1,668.98**	**1,411.23**	**1,266.40**

出所：GFMS、Thomson Reuters　※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
正味生産者ヘッジは鉱山会社のゴールドローン、フォワード・ポジション、オプション・ポジションが現物市場に与える影響の推移を示しています。

（コメントは、GFMS GOLD SURVEY 2015日本語ダイジェスト版より抜粋）

様に、金の消費量は記録的水準となった2013年の380トンから251トンまで減少し、2007年以来の最低水準まで落ち込んだ。全体の需給バランスを見ると、金地金、金貨、投資相当の宝飾品の購入量が減少したことから、2014年の市場は204トンの現物供給過多となった。

供給のポイント

● 2014年の鉱山生産量は2％増の3,133トンとなり、6年連続の増加によって記録的水準に達した。

● 2014年の産金コストは、2013年に急増した減損費用の減少により25％減の1,314ドル/ozまで低下。この評価損を除くと1,208ドル/ozであった。

●正味生産者ヘッジは103トンとなり、2014年の供給を加速させる要因となった。1999年以降で生産者ヘッジがヘッジ解消を上回ったのはわずか2回である。

● 2014年の中古金スクラップ供給量は世界全体で13％減の1,125トンにとどまり、7年ぶりの最低水準まで落ち込んだ。主因はドル建て金価格の下落と経済情勢の好転にあった。

需要のポイント

● 2014年の現物総需要は18％減少し、4年ぶりの最低水準となる4,158トンまで落ち込んだ。背景には、公的部門の購入量を除くすべての部門の需要が前年比で減少したことがあった。

●米ドル建て金価格が下落したにもかかわらず、2014年の宝飾需要は中国の需要急減によって9％減少した。

●工業用需要に関しては、すべての主要セクターの需要が低調だったことから、全体の需要も減少基調を辿り、2003年以来の最低レベルである4％減の400トンまで落ち込んだ。

●現物金地金投資、すべてのコイン、ETFの在庫構築を含む確認可能な投資需要は合計で3％増加した。主因は、ETFの売却ペースが減速したことにあった。他方、個人投資家による金地金とコインの購入量は約40％も減少した。主因は、アジアの主要市場の金地金とコインに対する関心が後退したことにあった。

●公的部門の正味購入量は14％増の466トンに達した。これは1964年以降2番目の高水準であった。

◆日本の金の供給と需要の推移

単位：kg

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
供給	新産金	149,020	129,082	145,535	80,983	87,117	93,152	86,687	66,311	53,136	57,797
	再生金	29,795	50,459	36,885	39,127	18,409	16,193	18,931	18,195	14,033	14,113
	輸入金	32,617	13,612	12,178	10,890	4,833	1,596	1,518	2,212	8,373	987
	国内流通（受入ー払出）	92,456	-12,636	14,332	60,099	17,791	11,020	23,740	51,606	51,432	28,055
	供給合計量	**303,888**	**180,517**	**208,930**	**191,099**	**128,151**	**121,961**	**130,876**	**138,324**	**126,973**	**100,952**
需要	消費者需要	162,686	182,907	186,888	137,514	87,841	97,110	77,200	70,135	48,109	45,482
	電気通信機器・機械部品用	118,282	126,258	125,165	84,903	54,979	60,868	46,649	38,364	28,466	27,462
	歯科・医療用	12,647	12,939	12,039	11,731	10,354	9,784	8,300	8,893	7,982	7,648
	メッキ用	14,114	17,597	22,276	13,836	4,798	5,596	2,718	3,703	2,305	1,551
	消費者需要その他	17,643	26,112	27,408	27,044	17,711	20,862	19,534	19,175	9,355	8,821
	準消費退蔵	30,056	28,127	29,010	28,530	21,483	23,396	32,453	21,673	18,473	13,082
	宝飾用	25,401	22,412	23,121	22,423	16,264	20,038	15,395	11,021	9,036	7,394
	美術工芸用	2,016	1,724	1,411	1,209	1,018	1,049	946	846	841	981
	メダル用	1,009	910	752	484	692	383	248	181	29	453
	準消費退蔵向けその他	1,631	3,082	3,726	4,414	3,509	1,926	15,865	9,625	8,566	4,254
	私的保有（退蔵ー退蔵放出）*	-5,427	-63,394	-65,257	-50,637	-27,542	-36,353	-52,208	-7,468	1,546	-6,287
	退蔵（＋）	61,958	38,573	36,287	69,446	47,471	44,249	50,423	38,352	56,546	35,599
	退蔵放出（ー）	67,385	101,967	101,544	120,083	75,014	80,602	102,631	45,820	55,000	41,886
	計	**187,315**	**147,640**	**150,641**	**115,407**	**81,782**	**84,153**	**57,445**	**84,340**	**68,128**	**52,277**
	輸出	83,471	57,682	63,923	77,739	46,083	39,997	66,284	64,201	60,894	71,481
	需要合計量	**270,786**	**205,322**	**214,564**	**193,146**	**127,865**	**124,150**	**123,729**	**148,541**	**129,022**	**123,758**

出所：経済産業省「貴金属流通統計調査」

＊「退蔵」とは個人の現物購入、「退蔵放出」とは個人の現物売却を指します。ここでは売買の動きを示す観点から両者ともプラス表示とし、その差分を「私的保有（退蔵 ー 退蔵放出）」として表しています。

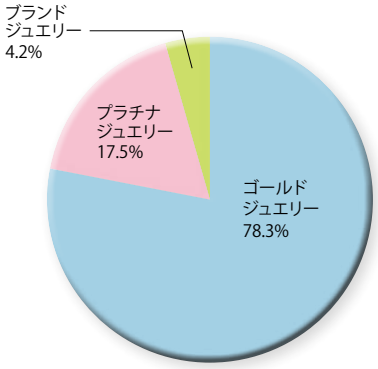
プラチナ・ジュエリー市場動向

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
代表取締役社長
ハンキンソン 尚子（はんきんそん ひさこ）

消費者買取市場

毎年約10トンの宝飾品用プラチナの需要を維持し続けている日本では、消費者からのプラチナ地金の買取量も無視できない状況にあります。プラチナ・ギルド・インターナショナル（ＰＧＩ）では、買取市場の動向を探るため2014年末に調査を実施しました。この調査結果によって明らかになったプラチナ買取市場の現状を報告します。

買取市場のシェアー 2013年（金額ベース）



貴金属宝石の2013年買取市場規模は3,341億円（前年比10.2％減）でした。貴金属別シェア（金額ベース）では、プラチナ17.5％に対してゴールドが78.3％を占めています。プラチナ・ジュエリーの買取量は11.3トンで、そのうち宝飾品製造用地金として再利用されたのはわずか1割の1.1トンにとどまり、ほとんどが海外輸出もしくは違う用途に使用されています。また中古製品として再度流通するプラチナ・ジュエリーも限られ、輸出が0.4トン、国内は微量です。

買取市場のほとんどをゴールドが占めている背景は、ジュエリーを売却している層はライトからミディアムユーザーが多く、この層はゴールドジュエリーの所有が多いためです。それに対してプラチナ・ジュエリーは高額品が多く、ミドルからアッパークラスが所有していることで、売却の必要性が低いことが買取市場への供給量が少ない理由としてあげられます。

1975年から2013年までの累計でプラチナ・ジュエリーの販売量は1,020トン。2003年以降の買取市場におけるプラチナ買取量は90.4トン。差し引き900トン以上のプラチナがタンス在庫として家庭に退蔵されていることになります。ちなみにそのタンス在庫のうち、売却されにくいブライダルジュエリーは約350トンを占めます。ユーザーの高齢化でタンス在庫は徐々に買取市場に放出されてゆくものの、これまでの消費者行動を見ると、よほど金価格相場が動きメディアの大々的な報道が無い限りそのペースは極めてゆっくりであると予想されます。

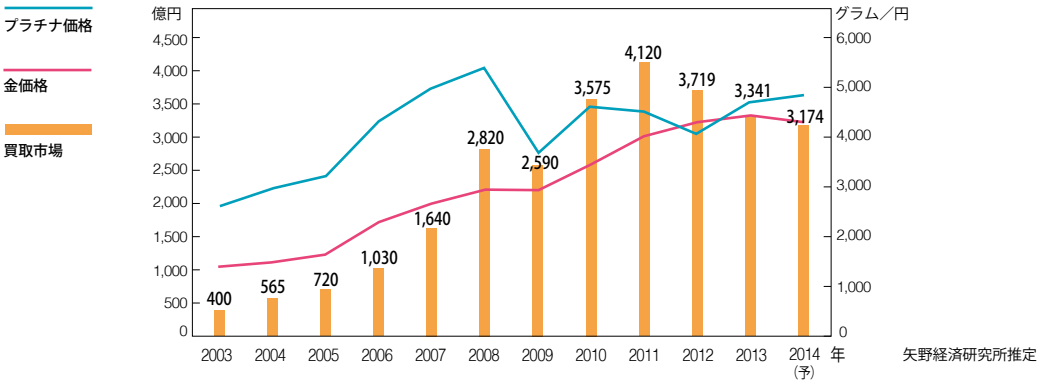
今後の貴金属宝石買取の動向については、市場はすでに2011年がピークで4,120億円に達し、これが2020年には約半分の2,172億円まで減少するものと予測されています。

上半期のプラチナ・ジュエリー市場

ＰＧＩでは、宝飾小売業の販売動向を探るため定期的な調査を行っています。調査対象の小売業は約100社で、宝飾市場における売上シェアは30％を占めています。この調査結果からは、直近のプラチナ・ジュエリー市場の傾向が窺えます。

2014年は割安なプラチナ地金や増税前の駆込み需要、そしてインバウンドの需要に支えられ、重量ベースで前年比3.3％増を記録しまし

貴金属・宝石買取市場規模の推移　C to Bベース



矢野経済研究所推定

た。2015年の第一四半期も懸念された程の落ち込みは無く、前半は特にプラチナ・ジュエリーが全般的に好調です。ジュエリー全体の売上を見ると、消費増税前の2014年1−3月は、金額ベースで前年同期比17.1％の増加、反動減となった2015年1−3月は11.7％減でした。プラチナ・ジュエリーでは、個数ベースで2014年1−3月は7.9％の増加、これが2015年は同期比5.2％減にとどまっています。

4−6月はジュエリー全体の売上がやや軟調気味であったものの、高額商品の需要に伸びがみられ、高額品の多いプラチナ・ジュエリーが好調に推移しています。実際、日本百貨店協会の発表でも宝飾品の売上は4月以降大きくプラスとなっています。ただし、こうした動きは都市部中心の現象であるためまだ楽観できない部分はありますが、全般的に4−6月は高額品需要に引っ張られ、回復傾向にあるとみられます。こうした流れから、この年末商戦も期待が持てるものと思われます。

世界トップのプラチナ・ジュエリー普及率および一人あたりの宝飾用プラチナ消費を誇る日本。成熟市場ならではのこだわりとして、世界に先駆けて純度の高いPt999のファッション・ジュエリーが新しい展開をみせています。すでに数社が取り組みを開始しており、日本独自の商品としてこれから期待が持てるプラチナ・ジュエリーの分野です。こうした先進的な弛まぬ努力によって日本市場はこれからも重要なポストを維持していくものと見ています。

また、従来から「良いジュエリーにはプラチナ」という志向が強い事に加え、プラチナ地金相場が低値安定していることから買いやすい価格のプラチナ・ジュエリーが店頭に増えており、若い人にも求めやすい状況が続く事が予想されます。ジュエリー販売価格の二極化も進んでいる中で、プラチナ・ジュエリーには追い風になっています。

そして日本の労働人口の減少にともない女性の労働力がますます必要とされる中、女性が社会進出するときにジュエリーは必携アイテムとなることや、2020年のオリンピックに向けてインフラ投資が盛んとなり、経済の好循環が生まれることで、さらに良い環境になるでしょう。こうした要因の分析からＰＧＩでは日本を強気なマーケットとしてとらえています。

2014年の世界のプラチナの供給と需要

供給量の減少によって、2014 年のプラチナ市場は 102万オンス（31.6 トン）の供給不足となった。プラチナの鉱山生産量は 2014 年に 21％もの大幅な減少となって、少なくとも 15 年ぶりの最低水準となる 470 万オンス（146.1トン）まで落ち込んだ。この減産の主因は南アフリカでの鉱山労働者・建設組合連合（AMCU）が主導した大規模なストライキにあり、これによって南アフリカ鉱業界の大半が 22 週間にわたって操業を停止した。この期間の損失は増産目標の未達分を含めて計 136 万オンス（42.1トン）にのぼったと推定される。プラチナの生産量という点で、2014 年は南アフリカにとって惨憺たる 1 年であったが、生産者コストに対するストライキの影響や大幅な上昇を続ける人件費を考えると、企業の収益水準という点ではさらに悲惨であったと言える。もっとも、ランドがドルに対して 13％も下落したことはある程度の好材料となった。それでも、南アフリカのコストは 2014 年に 5 ％増加した。

プラチナ価格が 100 ドル弱も下落したにもかかわらず、中古宝飾品からのプラチナ供給量は 2014 年に 5 ％増加し 52万オンス（16.1 トン）となった。この増加の大半を占めたのが中国（7％増）と日本（ 4 ％増）であった。日本では円安によって国内のプラチナ価格が上昇したことから、売りによる利益の確定が促され、中国ではサプライチェーンの在庫調整とリサイクル設備の増加によってリサイクル量が増加した。北米の場合、消費者が価格上昇を期待して売りを控えたため、中古宝飾品からのプラチナ供給量は 8 ％減少した。

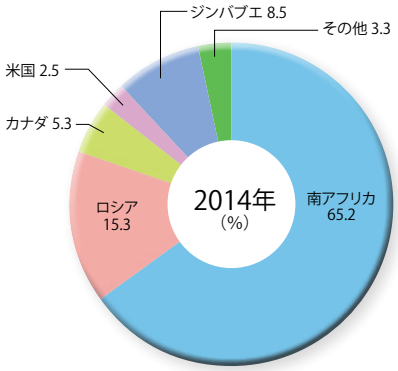
中古自動車触媒からのプラチナ供給量は 2014 年に 1％増加して、史上最高水準の 106 万オンス（32.8トン）に達した。北米を除くすべての地域で堅調に増加したが、北米では 16％減となり、

◆プラチナの地域別供給（鉱山生産量）

単位：トン

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
南アフリカ	143.2	147.7	147.3	130.3	133.3	95.2
ロシア	24.7	24.4	25.4	25.0	23.8	22.3
カナダ	5.3	4.0	8.4	6.9	6.8	7.7
米　国	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7
ジンバブエ	7.1	8.9	10.6	10.4	12.7	12.4
その他	4.1	3.9	3.6	4.3	4.9	4.8
鉱山生産量合計	**188.1**	**192.3**	**199.1**	**180.5**	**185.1**	**146.1**

出所：GFMS、Thomson Reuters



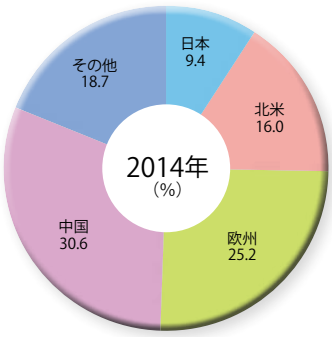
プラチナの地域別供給（鉱山生産量）

◆プラチナの地域別需要

単位：トン

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
日本	27.0	29.7	31.7	30.9	20.9	21.4
北米	31.1	30.8	33.4	35.6	35.6	36.3
欧州	55.6	60.8	62.6	56.4	54.8	57.2
中国	67.7	61.8	63.1	71.1	73.1	69.5
その他	28.8	39.7	42.4	38.1	38.3	42.4
合　計	**210.2**	**222.8**	**233.2**	**232.1**	**222.7**	**226.8**

出所：GFMS、Thomson Reuters



プラチナの地域別需要

※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
（コメントは、GFMS PLAYINUM ＆ PALLADIUM SURVEY 2015 日本語ダイジェスト版より抜粋）

他の地域の増加の大半を相殺した。北米が減少したのは、中古自動車触媒の在庫が積み上がっていることで米国市場が特に価格下落に敏感になっているためであった。

需要に関しては、自動車生産台数が大方の地域で堅調に推移し、2014 年に世界全体で 2 %増の 9,050 万台に達した。この背景には、欧州において自動車市場の景況感が改善し、自動車生産台数が増加したことがあった。これに加えて、多くの国で排ガス規制の強化が続けられ、特にアジアでは大気汚染が政治問題となる傾向を強め、新興国の規制強化が顕著となったことから、自動車 1 台当たりの貴金属使用量が増加した。こうした要因によって、プラチナの自動車触媒用需要は 4 %増の 300 万オンス（93.4 トン）となり、2011 年以来の最速ペースで増加した。しかし、総消費量は依然として 2007 年の史上最高水準を 26%下回っていた。

宝飾加工量は 3 年ぶりに減少に転じ、3 %減の推定 257 万オンス（79.9 トン）まで落ち込んだ。減少の大半を占めたのは中国と日本の 2 大市場で、需要がそれぞれ 5 %減と 2 %減となった。両国ともに、国内の景気減速に伴う消費者心理の冷え込みと裁量支出の減少によって、宝飾需要が減少した。欧州でも同様に、景気の低迷とプラチナ宝飾品の販促活動不足によって、需要が 3 %落ち込んだ。これとは対照的に、北米では、力強さを増す景気動向とプラチナ価格の下落によって国内消費が大幅に増加したため、プラチナ宝飾需要が 3 %増加した。

ガラス産業では、日本の工場閉鎖によって在庫のプラチナが市場に放出されたため、供給が需要を上回ったが、それ以外の主要工業セクターのプラチナ需要は 2014 年に大幅に増加した。化学セクターのプラチナ消費量は 2014 年に 36%増となって、史上最高水準の推定 59 万オンス（18.3 トン）に達した。この際立った増加は、主に日本と中国におけるパラキシレン生産設備の増設によるものであった。また昨年は、石油部門のプラチナ需要も増加に転じて 30%増となった。

◆プラチナの用途別需要

単位：トン

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
自動車触媒	78.0	91.3	94.9	90.6	90.1	93.4
宝飾品	83.3	68.5	74.3	80.8	82.7	79.9
化学	8.8	15.0	15.2	12.5	13.4	18.3
エレクトロニクス	7.9	7.8	7.0	6.1	5.3	5.1
ガラス	2.8	15.7	10.5	10.1	2.6	-1.0
石油	5.1	5.2	4.5	4.3	3.8	4.9
小口投資	9.8	3.0	9.7	8.8	4.4	4.3
その他工業用	14.2	16.6	17.3	18.8	20.2	21.8
合計	**209.9**	**223.1**	**233.3**	**232.0**	**222.5**	**226.6**

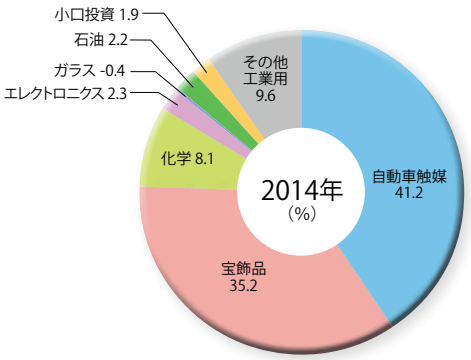
出所：GFMS、Thomson Reuters

◆日本の用途別プラチナ需要

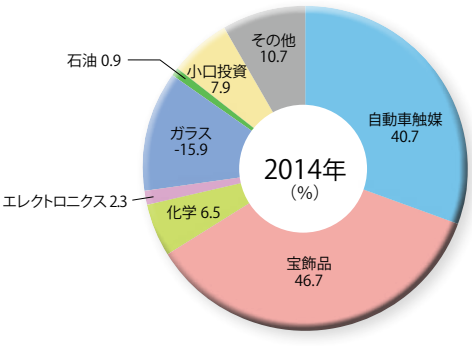
単位：トン

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
自動車触媒	9.6	11.4	9.4	10.0	9.0	8.7
宝飾品	8.4	8.1	8.8	9.9	10.2	10.0
化学	0.9	1.5	1.0	0.7	0.8	1.4
エレクトロニクス	1.0	0.9	0.8	0.7	0.5	0.5
ガラス	1.0	4.4	3.4	2.6	-2.7	-3.4
石油	0.3	0.6	0.3	0.3	-0.4	0.2
小口投資	4.4	1.1	6.4	4.6	1.3	1.7
その他	1.4	1.7	1.6	2.1	2.2	2.3
合計	**27.0**	**29.7**	**31.7**	**30.9**	**20.9**	**21.4**

出所：GFMS、Thomson Reuters



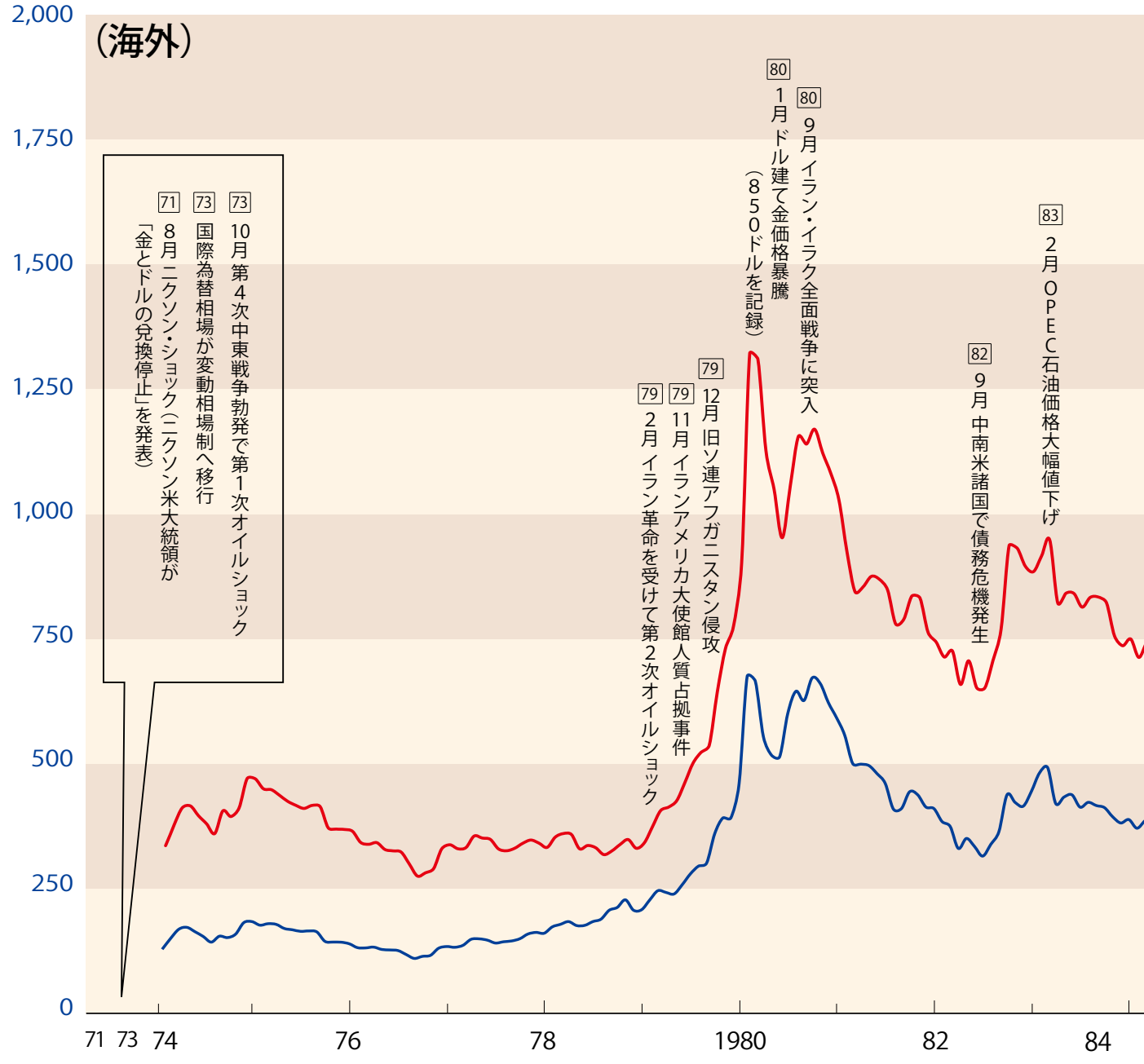
プラチナの用途別需要



日本の用途別プラチナ需要

金価格（月間平均）の長期推移と主なイベント

国際金価格
（ドル／オンス）



（国内）

73年
▶4月
金の輸入自由化

78年
▶4月
金の輸出入自由化
（完全自由化）

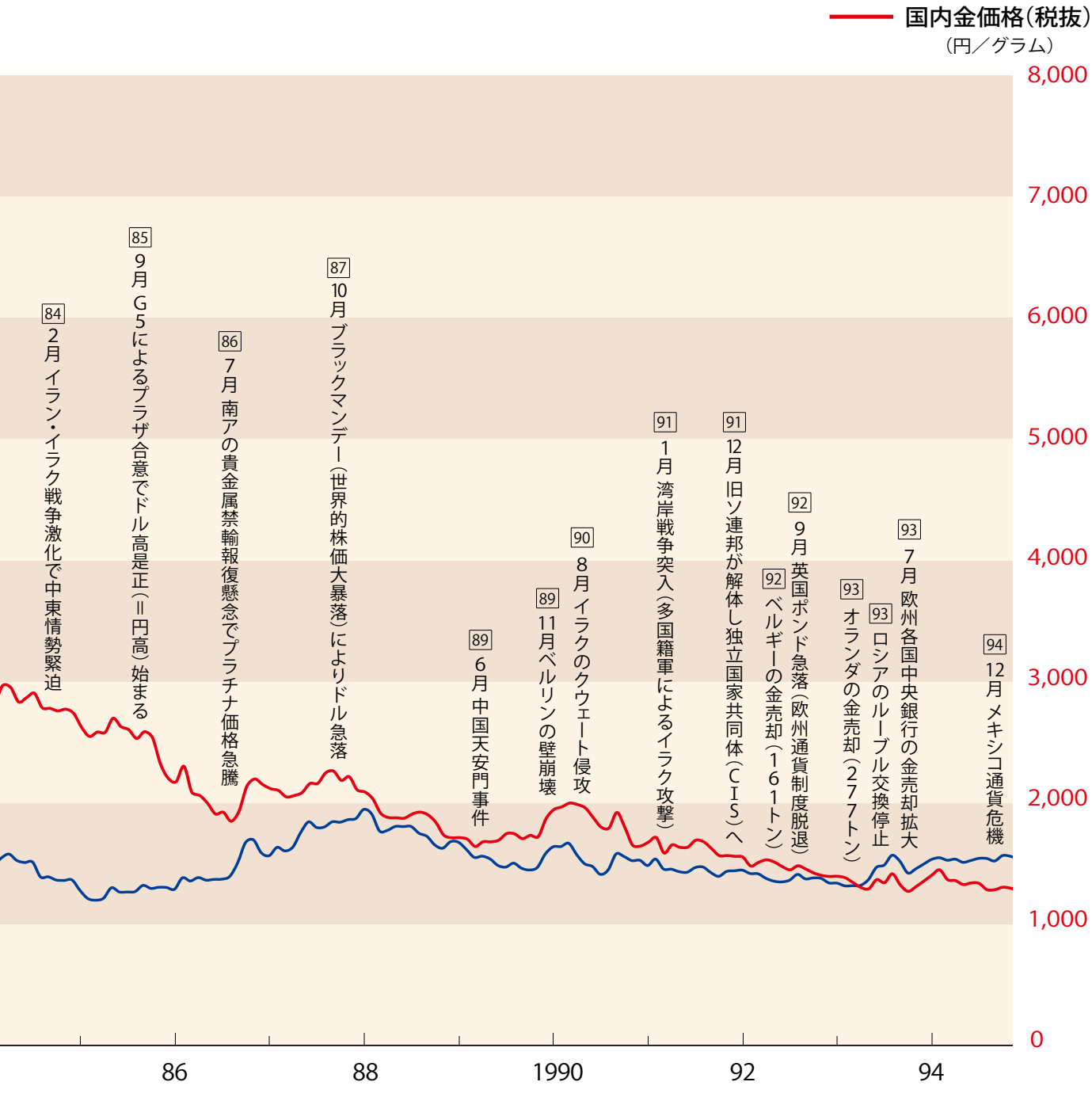
79年
▶12月
社団法人日本金地金流通協会が設立認可
▶年末
第1次金ブーム

80年
▶1月
円建て金価格最高値6,495円を記録
▶12月
南ア・クルーガーランド金貨発売

81年
▶11月
第２次金ブーム

82年
▶4月
銀行・証券会社が金売買を開始
▶9月
第３次金ブーム

1971–1994



85年
▶10月
南ア・アパルトヘイト受けてクルーガーランド金貨輸入自粛

86年
▶4月
ドル円相場200円割れ
▶11月
天皇陛下御在位六十年記念金貨発行

87年
▶4月
ドル円相場150円割れ
▶12月
ドル円相場120円台へ

88年
▶7月
地金商の小売価格体系変更（1日4回発表に）

89年
▶4月
消費税導入（3%）
▶11月
オーストリアのウィーン金貨発売

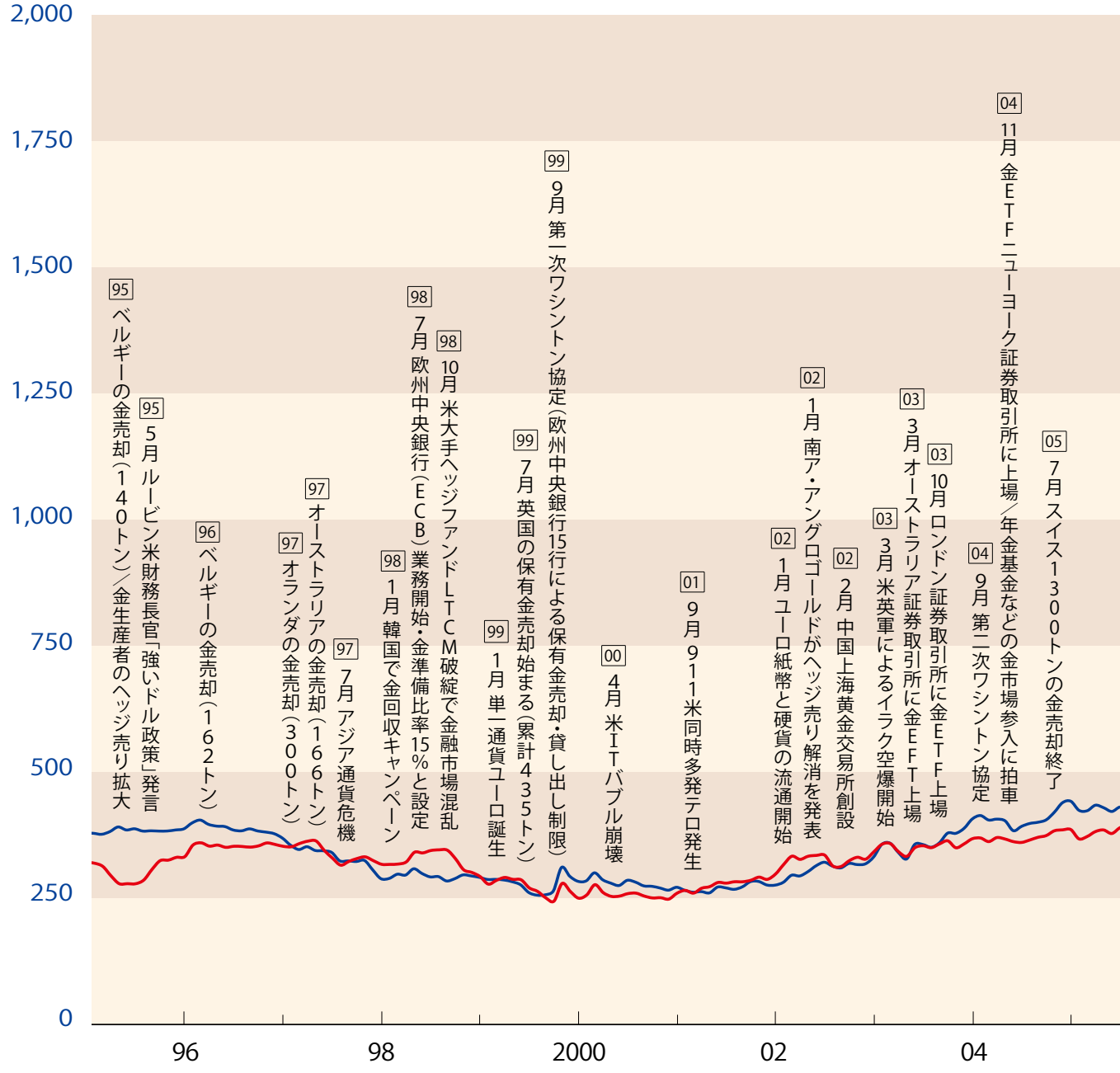
90年
▶4月
天皇陛下御即位記念金貨発行

91年
▶3月
バブル崩壊始まる

94年
▶7月
ドル円相場100円割れ

1995–2015

国際金価格
（ドル/オンス）



95年
▶1月
阪神淡路大震災
▶3月
地下鉄サリン事件発生
▶4月
円相場対ドルで
79.75円の史上最高値
（後に2011年3月に更新）

96年
日本版・金融
ビッグバン始まる

97年
▶4月
消費税５％に
▶11月
山一證券が経営破綻
北海道拓殖銀行が
経営破綻

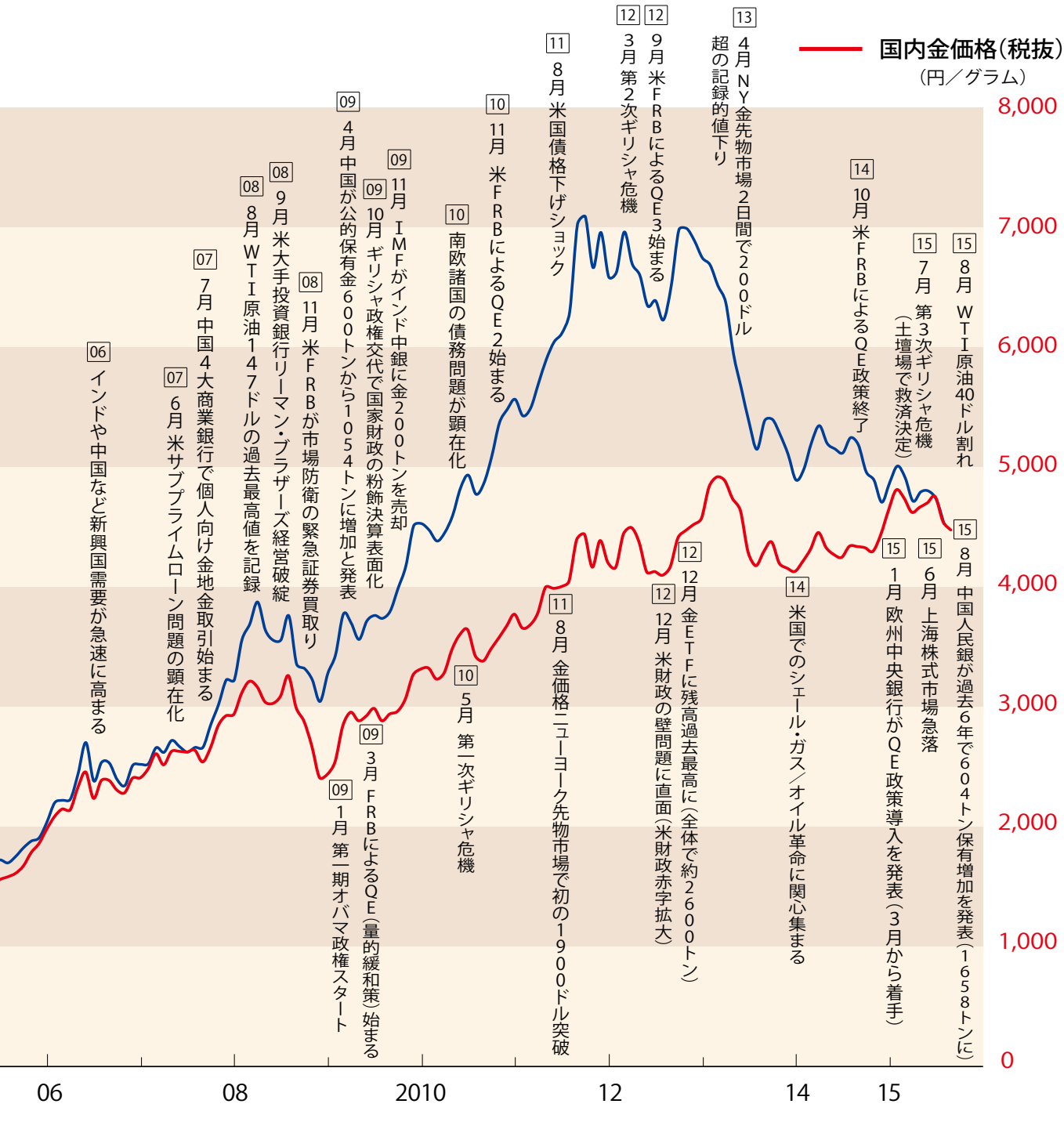
98年
▶12月
日本債権信用銀行が
経営破綻

99年
▶9月
円建て金価格1,000円の
大台を割込む

01年
▶3月
日本銀行・初の量的
緩和始まる（5年間）

03年
▶5月
りそな銀行へ
公的資金注入

05年
▶4月
ペイオフ
全面解禁



08年
▶3月
犯罪収益移転防止法施行

11年
▶3月
東日本大震災発生・福島原発メルトダウン
東京証券取引所に金ETF上場
ドル円相場75.17円の史上最高値を付ける

12年
▶1月
支払調書制度施行（金・プラチナ）
▶12月
自民党第２次安倍政権誕生・アベノミクス始まる

13年
▶2月
金店頭小売価格5000円台に（税抜）
▶4月
日本銀行による異次元量的緩和始まる

14年
▶4月
消費税８％に
▶10月
日本銀行追加緩和策発表
年間80兆円の国債買取り

一般社団法人

日本金地金流通協会・沿革と活動

協会の設立と目的ならびに会員構成

昭和 54 年 12 月、金地金の健全な取引と正しい知識の普及をはかるために発足した当協会は、皆様のご支援のもとに、35年を経過しようとしています。この間、広報、調査、教育等の活動を中心に、所期の目的を果たすべく努力を傾注し、これにより世界の金・プラチナ地金流通機構の一環として社会の信頼と世界的な相互関係を確保することが達成し得たと申せましょう。

当協会は、現在（平成 27 年 9 月）下記の構成で結束を固め、日本の金・プラチナ市場のいっそうの発展に寄与していく所存です。

正会員	24 社	
特別会員	2 社	
登録店	166 社	
賛助会員	27 社	合計 219 社

協会の沿革と日本の金市場

現在の「一般社団法人　日本金地金流通協会」の沿革は、昭和 22 年 4 月に結成され、昭和 28 年 7 月に発展的に解散された「貴金属協議会」に端を発しております。

昭和 28 年 8 月に政府の金政策の転換により金管理法の一部が改正され、国内新産金の一部（後に全部）の民間放出が認められることになり、前述の貴金属協議会は発展的に解散となり、貴金属地金商 14 社、1 協同組合が新たに「貴金属地金協会」を結成しました。

昭和 48 年 4 月、金の輸入自由化とともにデパート等で金の販売がスタート。昭和 53年、輸出の自由化も実施され、わが国では金の取引が完全に自由化されました。年々急増するわが国の金需要に関連して、金地金に関する知識や取引形態についての理解の不足などから、無秩序に出現した私設の金市場による一般消費者の被害も多発し、社会的な問題となってきました。

このような背景の中で、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的として、貴金属地金協会会員が中心となり、昭和 54 年 12 月 28 日、通商産業省（現・経済産業省）から社団法人 日本金地金流通協会の設立が許可され、昭和 55 年 1 月より活動を開始しました。その後、平成 25 年 4 月 1 日付けで一般社団法人へ移行し現在に至っております。

以降、金やプラチナの正しい取引についての啓蒙活動を積極的に展開する一方、講演会の開催、会員のための研修会開催、悪質な取引に関する注意喚起など、幅広く活動を行っております。また、平成 12 年 4 月からインターネット上にホームページを開設し、会員会社の紹介を行うとともに、一般消費者に対して金地金等の貴金属に関する各種の情報提供を行っております。

協会役員の紹介

会長	田苗 明	田中貴金属工業株式会社	代表取締役社長
副会長	片桐 俊一	片桐貴金属工業株式会社	代表取締役社長
副会長	古宮 誠一	石福金属興業株式会社	代表取締役会長
専務理事	須江 米夫	一般社団法人 日本金地金流通協会	
理事	山口 純	株式会社徳力本店	代表取締役社長
理事	山本 隆彦	山本貴金属地金株式会社	代表取締役社長
理事	五木田 春夫	小島化学薬品株式会社	代表取締役社長
理事	井嶋 隆之	井嶋金銀工業株式会社	代表取締役社長
理事	相田 英則	相田化学工業株式会社	代表取締役社長
理事	堤田 龍治	堤田貴金属工業株式会社	代表取締役専務
監事	松村 正裕	株式会社松村金銀店	代表取締役社長
監事	乾 保太郎	乾庄貴金属化工株式会社	代表取締役社長

正会員

当協会正会員24社が販売する金地金には、それぞれの《刻印》が押されており、
信頼のシンボルになっています。

株式会社 アサカ理研
〒963-0725 福島県郡山市田村町金屋字マセロ47
TEL.024-944-4744　FAX.024-944-4766
www.asaka.co.jp

田中貴金属工業株式会社
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3
東京ビルディング22F
TEL.03-6311-5511　FAX.03-6311-5571
gold.tanaka.co.jp

相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-15-13
TEL.042-368-6311　FAX.042-368-6316
www.aida-j.jp

株式会社 徳力本店
〒101-8548 東京都千代田区鍛冶町2-9-12
TEL.03-3252-0171　FAX.03-3258-1234
www.tokuriki-kanda.co.jp

アサヒプリテック株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL.03-6270-1826　FAX.03-6270-1825
www.asahipretec.com

中溝貴金属工業株式会社
〒141-0031東京都品川区西五反田3-16-7
TEL.03-3491-4141　FAX.03-3490-4550

石福金属興業株式会社
〒101-8654 東京都千代田区内神田3-20-7
TEL.03-3252-3131　FAX.03-3254-6285
www.ishifuku.co.jp

松田産業株式会社
〒163-0558 東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル6F
TEL.03-3345-0811　FAX.03-3345-8605
www.matsuda-sangyo.co.jp

井島貴金属精錬株式会社
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-50-10
TEL.03-3803-1705　FAX.03-3803-2492
www.ijimakk.com

株式会社 松村金銀店
〒124-0013 東京都葛飾区東立石3-8-4
TEL.03-3694-0173　FAX.03-3691-4601
www.kingin.co.jp

井嶋金銀工業株式会社
〒116-8543 東京都荒川区東日暮里5-47-10
TEL.03-3803-4341　FAX.03-3802-4775
www.ijimakk.co.jp

水野ハンディー・ハーマン株式会社
〒110-0014 東京都台東区北上野2-11-12
TEL.03-3844-6161　FAX.03-3844-6150
www.mhh.co.jp

片桐貴金属工業株式会社
〒114-0012 東京都北区田端新町3-11-2
TEL.03-3894-4111　FAX.03-3894-4178
www.katagiri-k-k.co.jp

横浜金属株式会社
〒252-0132 相模原市緑区橋本台3-5-2
TEL.042-773-4411　FAX.042-773-4775
www.yk-metal.com

小島化学薬品株式会社
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原337-26
TEL.04-2953-9231　FAX.04-2953-9237
www.kojima-c.co.jp

株式会社 森銀
〒400-0834 山梨県甲府市落合町817
TEL.055-241-6611　FAX.055-241-7988
www.morigin.co.jp

竹内貴金属工業株式会社
〒108-0071 東京都港区白金台1-2-10
藤和白金台コープB101
TEL.03-3447-0321　FAX.03-3447-0340
www.takeuchi-kk.com

安藤貴金属精錬株式会社
〒453-0014 名古屋市中村区則武1-1-24
TEL.052-452-1678　FAX.052-451-7988
www.ando-precious.com

正会員

株式会社 坂金銀店
〒451-0044 名古屋市西区菊井1-24-18
TEL.052-571-3555　FAX.052-571-3557

山本貴金属地金株式会社
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町3-7
TEL.06-6761-4739　FAX.06-6761-4743
www.yamakin-gold.co.jp

大浦貴金属工業株式会社
〒630-8042 奈良県奈良市西ノ京町284
TEL.0742-33-8545　FAX.0742-34-7884
www.ohura.co.jp

堤田貴金属工業株式会社
〒733-0012 広島市西区中広町2-14-23
TEL.082-293-2233　FAX.082-295-0643
www.gold-tsutsumida.co.jp

乾庄貴金属化工株式会社
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-10-8
TEL.06-6643-1234　FAX.06-6643-4598
www.prcimtl.co.jp

株式会社 松井商会
〒874-0942 大分県別府市千代町4-2
TEL.0977-22-4045　FAX.0977-23-3226
matsuishokai.net

特別会員

ワールドゴールドカウンシル
〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル東館19 F

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー17 F

※ホームページURL冒頭の「http://」は省略しております。

貴金属の需給リポート
『GFMS GOLD SURVEY 2015』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html
『GFMS PLATINUM & PALLADIUM SURVEY 2015』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html

貴金属情報
ワールド ゴールド カウンシル（英文）……www.gold.org
プラチナ・ギルド・インターナショナル 株式会社……www.preciousplatinum.jp
THOMSON REUTERS（英文）……thomsonreuters.com
KITCO（英文：価格情報をリアルタイムでチャート表示）……www.kitco.com
The Bullion Desk（英文：英語圏のニュース、リポート）……www.bulliondesk.com

登録店

■北海道

風早金銀店
〒060-0062 札幌市中央区南2条西7丁目
TEL.011-231-2213 FAX.011-231-7457

(株)宝石の玉屋
〒060-0002 札幌市中央区北2条西3-1
敷島ビル1F
TEL.011-231-4517 FAX.011-222-1892

(株)大作時計店
〒093-0014 網走市南4条西1-5
TEL.0152-44-1122 FAX.0152-44-1136

時計・宝石いしおか
〒080-0012 帯広市西2条南8丁目
藤丸デパート6F
TEL.0155-24-0936 FAX.0155-23-3193

ヘリテージ・キムラ
〒053-0022 苫小牧市表町3-2-11
TEL.0144-34-6511 FAX.0144-36-4877

(株)ワ渡辺時計店
〒040-0063 函館市若松町17-9
TEL.0138-23-4111 FAX.0138-26-2818

(株)日昇堂
〒050-0074 室蘭市中島町1-18-4
TEL.0143-44-4476 FAX.0143-44-6321

(株)藤屋時計店
〒050-0085 室蘭市輪西町1-19-5
TEL.0143-44-5551 FAX.0143-43-8035

■青森県

(株)丸啓
〒030-0801 青森市新町2-5-6
TEL.0177-23-2611 FAX.0177-23-2622

(株)マエバラ
〒031-0031 八戸市番町30
TEL.0178-45-6677 FAX.0178-45-6728

(株)高橋時計店
〒035-0035 むつ市本町3-9
TEL.0175-22-3010 FAX.0175-22-3979

■秋田県

(株)竹谷本店
〒010-0001 秋田市中通2-4-3
TEL.018-835-1331 FAX.018-832-1906

■宮城県

GINZA TANAKA 仙台店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-5-7
TEL.022-265-4130 FAX.022-265-4131

(株)三原本店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-2-23
TEL.022-224-0010 FAX.022-224-0536

(株)ナガハシ
〒989-0275 白石市字本町105
TEL.0224-25-1188 FAX.0224-25-1189

(株)天賞堂
〒989-6163 大崎市古川台町1-7
TEL.0229-23-5151 FAX.0229-23-7842

■福島県

(株)三瓶貴金属店
〒960-8036 福島市新町2-30
TEL.024-522-8451 FAX.024-522-5538

(株)ネモト
〒970-8026 いわき市平3-24
TEL.0246-25-5566 FAX.0246-23-8089

ワタナベ
〒970-8026 いわき市平2-33-1
TEL.0246-22-2131 FAX.0246-22-2132

(株)増子時計店
〒963-8002 郡山市駅前2-6-19
TEL.024-922-3456 FAX.024-932-2566

(有)サトウ時計店
〒965-0878 会津若松市中町1-1
TEL.0242-27-1290 FAX.0242-27-4120

(株)石沢
〒964-0906 二本松市若宮2-154-15
TEL.0243-23-0431 FAX.0243-23-0453

■岩手県

(株)道又時計店
〒020-0022 盛岡市大通り3-1-18
TEL.019-651-1234 FAX.019-651-1238

(有)松村時計店
〒024-0094 北上市本通り2-3-43
TEL.0197-65-3201 FAX.0197-65-2085

(株)おくやま
〒025-0078 花巻市吹張町12-11
TEL.0198-22-3333 FAX.0198-22-6770

■山形県

(株)平田金銀店
〒990-0039 山形市香澄町3-1-1
TEL.023-622-5540 FAX.023-641-3214

(株)宝石の柿崎
〒996-0023 新庄市沖の町5-13
TEL.0233-22-3115 FAX.0233-22-2542

(有)サクラ堂
〒996-0023 新庄市沖の町1-5 ヤマキビル1F
TEL.0233-22-5888 FAX.0233-22-1327

(有)佐藤正栄堂
〒997-0034 鶴岡市本町2-2-10
TEL.0235-22-0554 FAX.0235-24-9350

(株)新光堂本店
〒994-0049 天童市南町1-1-15
TEL.023-654-5626 FAX.023-654-5621

■茨城県

(株)ジュエリーネモト
〒310-0852 水戸市笠原町300-1
TEL.029-305-1811 FAX.029-305-1671

(株)イシカワ
〒310-0021 水戸市南町3-4-8
TEL.029-225-3939 FAX.029-225-3936

(有)中村時計店
〒306-0033 古河市中央町1-10-43
TEL.0280-22-0654 FAX.0280-22-0656

■栃木県

(有)今泉貴金属
〒320-0023 宇都宮市仲町1-13
TEL.028-622-3573 FAX.028-624-5010

(有)トコヨ時計店
〒320-0802 宇都宮市江野町5-10
TEL.028-634-9057 FAX.028-634-9057

(株)博泉堂
〒320-0026 宇都宮市馬場通り2-3-8
TEL.028-635-1811 FAX.028-633-3366

(株)フタバ堂
〒326-0814 足利市通2-2618
TEL.0284-22-0234 FAX.0284-20-1025

(株)ジュエルエレガンス
〒323-0829 小山市東城南1-31-7
TEL.0285-31-4866 FAX.0285-31-4867

■群馬県

ラフィーネ平田
〒371-0831 前橋市小相木町545-1
TEL.027-252-8828 FAX.027-251-0862

パルク岡村
〒372-0047 伊勢崎市本町3-23
TEL.0270-25-0131 FAX.0270-25-3211

Hearty Heart イトイ伊勢崎店
〒372-0801 伊勢崎市宮子町3423-24
TEL.0270-50-0360 FAX.0270-50-0361

■埼玉県

(株)ツツミ
〒335-0004 蕨市中央4-24-26
TEL.048-431-5111 FAX.048-444-2900

登録店

■千葉県

(株)勉強堂本店
〒260-0013 千葉市中央区中央3-15-9
TEL.043-225-1131 FAX.043-225-8292

実香宝石店
〒294-0047 館山市八幡530-1
TEL.0470-22-0665 FAX.0470-24-1508

■東京都

中真堂(株)
〒133-0056 江戸川区南小岩7-24-15
小岩ステーションセンター内
TEL.03-3672-0424 FAX.03-3672-0560

(株)フジタ
〒144-0052 大田区蒲田5-8-8
TEL.03-3731-2980 FAX.03-3736-0821

(株)山口商店
〒115-0055 北区赤羽西4-1-17
TEL.03-3900-3655 FAX.03-3906-4389

(株)明光堂
〒135-0047 江東区富岡1-9-9
TEL.03-3641-1865 FAX.03-3641-2006

GINZA TANAKA 新宿店
〒160-0022 新宿区新宿3-33-10
TEL.03-3355-4143 FAX.03-3355-5321

石福ジュエリーパーツ(株)
〒110-0005 台東区上野5-22-6
御徒町みきビル
TEL.03-3832-5241 FAX.03-3836-2063

(株)大淵銀器
〒110-0015 台東区東上野3-1-13
TEL.03-3847-7711 FAX.03-3843-1360

(株)コモキン本店
〒110-0005 台東区上野1-10-10
うさぎやビル3F
TEL.03-3836-0471 FAX.03-3836-1790

松本徽章工業(株)
〒111-0041 台東区元浅草1-12-2
TEL.03-3842-6161 FAX.03-3845-6267

(株)森銀器製作所
〒110-0015 台東区東上野2-5-12
TEL.03-3833-8821 FAX.03-3832-3762

(株)浅野商店
〒104-0061 中央区銀座8-8-5 太陽ビル10F
TEL.03-3573-1003 FAX.03-3573-2002

GINZA TANAKA 銀座本店
〒104-0061 中央区銀座1-7-7
TEL.0120-76-4143 FAX.03-3564-2658

オリエンタルダイヤモンド 丸の内店
〒100-0006 千代田区有楽町1-12-1
新有楽町ビル1F
TEL.03-3287-2801 FAX.03-3287-2802

(株)一誠堂
〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-7
TEL.03-3717-6660 FAX.03-3718-8765

■神奈川県

松本徽章(株)
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町5-129
TEL.045-252-5175 FAX.045-261-6446

(株)アート宝飾
〒231-0014 横浜市中区常盤町4-45
TEL.045-662-3111 FAX.045-681-6363

GINZA TANAKA 横浜元町店
〒231-0861 横浜市中区元町1-29-3
TEL.045-663-3151 FAX.045-663-3157

佐野商事(株)
〒257-0031 秦野市曽屋1175
TEL.0463-82-3500 FAX.0463-82-3501

(株)銀美堂
〒251-0047 藤沢市辻堂1-3-2
TEL.0466-36-5131 FAX.0466-36-5557

(株)和田屋
〒251-0052 藤沢市藤沢969-1-101
TEL.0466-26-2306 FAX.0466-26-2307

■山梨県

井島貴金属精錬(株)甲府営業所
〒400-0861 甲府市城東1-8-11
ルミエール愛宕山1F
TEL.0552-35-6963 FAX.0552-32-8527

(株)オプト ナカムラ
〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津2448
TEL.0555-72-1408 FAX.0555-73-3666

■長野県

ジュエリー東京 長野店
〒380-0826 長野市北石堂町1381
TEL.026-226-5556 FAX.026-226-7770

(有)ツノダ
〒395-0031 飯田市銀座4-1
TEL.0265-23-1321 FAX.0265-23-1322

(株)マルトキ
〒396-0025 伊那市荒井22
TEL.0265-78-2266 FAX.0265-73-6977

(株)三村貴金属店
〒392-0004 諏訪市諏訪1-5-20
TEL.0266-52-0625 FAX.0266-52-0630

(株)ヤマザキ
〒392-0004 諏訪市諏訪1-3-11
TEL.0266-52-5200 FAX.0266-58-5814

■新潟県

(株)宝石のダイヤ
〒951-8063 新潟市古町通八番町1508
TEL.025-228-5833 FAX.025-225-4171

(株)早津
〒943-0832 上越市本町4-1-8
TEL.025-523-2203 FAX.025-524-0366

(株)ミヤコヤ
〒940-0062 長岡市大手通1丁目3-3
TEL.0258-36-2020 FAX.0258-32-1616

■静岡県

(株)安心堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-9
TEL.054-254-0111 FAX.054-209-0982

(株)タカラ堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-4-4
TEL.054-254-0141 FAX.054-251-2660

オザワ宝石(株)
〒422-8042 静岡市駿河区石田3-6-13
TEL.054-283-2105 FAX.054-285-9275

(株)三青貴宝
〒410-0037 沼津市三枚橋町5-21 三青ビル
TEL.055-963-2779 FAX.055-951-0263

河合宝石店
〒430-0928 浜松市板屋町102-14
TEL.053-453-9177 FAX.053-454-1251

(株)いとう時計店
〒421-0523 牧之原市相良町波津709
TEL.0548-52-1191 FAX.0548-52-2688

■愛知県

(株)池田商店
〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-13
TEL.052-221-7411 FAX.052-201-6900

石福金属興業(株)名古屋営業所
〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-22-10
TEL.052-563-1201 FAX.052-563-1219

(株)サンメナード
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-24
ノノガワビル2F
TEL.052-962-4755 FAX.052-951-4705

(株)水渓
〒460-0008 名古屋市中区栄3-27-25
TEL.052-261-2641 FAX.052-261-7093

GINZA TANAKA 名古屋店
〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-70
TEL.052-262-0277 FAX.052-263-1580

(株)柏圭
〒460-0008 名古屋市中区栄3-9-17
TEL.052-261-7781 FAX.052-261-7713

(株)エンジェリーいのこ
〒491-0851 一宮市大江3-1-21
TEL.0586-71-7474 FAX.0586-71-7477

(株)伊藤宝石店
〒448-0844 刈谷市広小路4-209
TEL.0566-21-3124 FAX.0566-21-8205

(株)ニイミ時計店
〒475-0853 半田市南末広町1-1
TEL.0569-22-4771 FAX.0569-22-4772

ジュエリーサトウ
〒496-0071 津島市新開町1-6 ヨシヅヤSC内1F
TEL.0567-23-2233 FAX.0567-23-7351

■岐阜県

(株)岩田時計舗
〒500-8876 岐阜市日ノ出町1-16
TEL.058-265-7717 FAX.058-266-0160

(株)千賀
〒500-8833 岐阜市神田町8-15
TEL.058-265-5566 FAX.058-263-5468

■三重県

(株)キタオカ
〒510-0086 四日市市諏訪栄町14-8
TEL.059-351-2552 FAX.059-354-1954

(有)日宝堂
〒516-0026 伊勢市宇治浦田3-3-33
TEL.0596-24-2180 FAX.0596-28-8100

■富山県

(株)ソシエハシヅメ
〒930-0083 富山市総曲輪3-5-10
TEL.076-425-3838 FAX.076-422-3033

エルサカエ富山総本店
〒930-0818 富山市奥田町3-14
TEL.076-431-3200 FAX.076-442-1177

(株)大坪
〒933-0026 高岡市片原町155
TEL.0766-25-4255 FAX.0766-26-6165

■石川県

作田金銀製箔(株)
〒920-0831 金沢市東山1-3-27
TEL.076-251-6777 FAX.076-251-6677

(株)アルテシマダ
〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビル
TEL.076-260-0030 FAX.076-223-0771

高岡製箔(株)
〒920-0843 金沢市森山1-30-4
TEL.076-252-3601 FAX.076-252-7765

(株)今井金箔
〒920-0968 金沢市幸町7-3
TEL.076-221-1990 FAX.076-223-1659

(株)森立志堂
〒923-0921 小松市土居原町189-2
TEL.0761-24-1388 FAX.0761-24-1384

■福井県

(株)福井ゴールドセンター奥田
〒910-0004 福井市宝永4-19-3
TEL.0776-22-3506 FAX.0776-22-3546

(株)藤井時計店
〒910-0006 福井市中央1-5-1
TEL.0776-22-3375 FAX.0776-22-3349

(株)宝石時計の武内
〒910-0006 福井市中央1-9-28
TEL.0776-30-7711 FAX.0776-30-7710

(株)川上
〒914-0054 敦賀市白銀町5-27
TEL.0770-22-0665 FAX.0770-22-6060

■京都府

(株)ゴールドスリー サイトウ
〒604-8081京都市中京区寺町通三条上ル
天性寺前町532 北原ビルB1
TEL.075-241-2468 FAX.075-254-7117

星辰屋時計店
〒623-0021 綾部市本町2-2
TEL.0773-42-2154 FAX.0773-42-2154

(有)カワモト
〒621-0818 亀岡市京町28-1
TEL.077-122-1682 FAX.077-122-2788

(株)シオミ
〒625-0036 舞鶴市字浜266
TEL.0773-62-0370 FAX.0773-64-3806

■滋賀県

(有)川原崎
〒522-0088 彦根市銀座町4-24
TEL.0749-22-0838 FAX.0749-22-7383

■奈良県

(株)エレガンスヨシダ
〒636-0003 北葛城郡王寺町久度2-13-5
TEL.0745-32-1151 FAX.0745-72-1770

■大阪府

石福金属興業(株)大阪営業所
〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-36
TEL.06-6532-1351 FAX.06-6533-6064

マルフク商会(貴金属部)
〒530-0013 大阪市北区茶屋町6-2 水野ビル
TEL.06-6373-0298 FAX.06-6372-8622

オリエンタルダイヤモンド梅田店
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4-100
大阪駅前第4ビル1F
TEL.06-6344-1821 FAX.06-6341-5708

GINZA TANAKA 心斎橋店
〒520-0085 大阪市中央区心斎橋筋1-4-21
TEL.06-6244-4143 FAX.06-6253-4110

(株)徳力本店 大阪営業所
〒542-0081大阪市中央区南船場2-11-20
GATO三休橋ビル1階
TEL.06-6252-7811 FAX.06-6252-7815

(株)新光貴
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-7-21
TEL.06-6261-0210 FAX.06-6261-0220

■兵庫県

(株)タナカ
〒670-0922 姫路市二階町51
TEL.079-225-1212 FAX.079-225-1215

木谷貴金属(株)
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-5-10
TEL.078-332-5757 FAX.078-391-3664

(株)元町時計店
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-8-5
TEL.078-331-1712 FAX.078-331-1860

K.G.B.神戸ゴールドバンク
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9 1R-07
神戸ファッションマート1F
TEL.078-891-8711 FAX.078-891-8733

(株)ミヤコ
〒675-0065 加古川市加古川町篠原町13-4
TEL.079-422-2232 FAX.079-425-2243

■和歌山県

(株)セキネ ガーデンパーク店
〒640-8421 和歌山市松江向鵜の島1469-1
ガーデンパーク2F
TEL.073-455-5700 FAX.073-455-5770

■岡山県

(株)田中時計店
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-81
TEL.086-225-2361 FAX.086-232-4448

(株)トミヤコーポレーション
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-83
TEL.086-212-1038 FAX.086-235-6565

菅田(株)
〒708-0841 津山市川崎1902-3
TEL.0868-25-1231 FAX.0868-23-1232

(株)不二屋宝飾店
〒708-8520 津山市新魚町17 アルネ津山1F
TEL.0868-22-3914 FAX.0868-22-3918

■鳥取県

(株)中井脩
〒680-0831 鳥取市栄町623
TEL.0857-23-5221 FAX.0857-22-8338

(株)米子中井脩
〒683-0804 米子市米原7-1-14
TEL.0859-33-5566 FAX.0859-22-2219

登録店

■島根県

(有)創美堂
〒690-0843 松江市末次本町29
TEL.0852-21-4100 FAX.0852-27-4100

(株)アツタ
〒693-0001 出雲市今市町1395
TEL.0853-22-5530 FAX.0853-22-5531

(株)ニッタ
〒697-0037 浜田市新町11-3
TEL.0855-23-1141 FAX.0855-23-1145

■広島県

浅田貴金属
〒736-0081 広島市安芸区船越4-6-12
TEL.082-823-2931 FAX.082-823-2931

(株)ナカオカ
〒730-0033 広島市中区堀川町5-10
TEL.082-246-7788 FAX.082-246-4300

(有)松林貴金属商会
〒730-0003 広島市中区白島九軒町3-10
TEL.082-222-6361 FAX.082-222-6361

(株)麻生
〒720-0043 福山市船町1-1
TEL.084-926-2538 FAX.084-931-2911

■山口県

(株)山本時計店
〒753-0043 山口市宮島町8-4
TEL.083-924-3210 FAX.083-924-3218

(株)ジュエルセブン
〒750-0025 下関市竹崎町4-4-8
TEL.083-235-0123 FAX.083-261-1377

■徳島県

(株)池田時計店
〒770-0904 徳島市新町橋1-11
TEL.088-622-2770 FAX.088-623-4194

(株)ハラダ
〒770-0912 徳島市東新町1-21
TEL.088-622-6872 FAX.088-655-1236

(株)ヨシイ時計店
〒772-0003 鳴門市撫養町小桑島字前浜23-9
TEL.088-685-3589 FAX.088-685-8866

(株)ジュエリー ピコ
〒771-0212 板野郡松茂町中喜来字前原東5-9-2
TEL.088-699-3339 FAX.088-699-6669

■香川県

(株)柿屋
〒760-0040 高松市片原町9-7
TEL.087-821-5440 FAX.087-821-5447

(有)はなや
〒760-0029 高松市丸亀町6-6
TEL.087-822-0777 FAX.087-822-0778

■高知県

(株)大西時計店
〒780-0841 高知市帯屋町1-13-20
TEL.088-823-0024 FAX.088-823-0025

■愛媛県

桜産業(株)
〒790-0012 松山市湊町3-8-5
TEL.089-941-7111 FAX.089-941-7115

(有)ササキ時計店
〒794-0015 今治市常盤町2-6-1
TEL.0898-32-2126 FAX.0898-32-2124

(株)木藤時計店
〒798-0040 宇和島市中央町1-5-7
TEL.0895-25-2255 FAX.0895-24-5109

■福岡県

(株)ジャパンゴールド
〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-45
Qiz TENJINビル3F
TEL.092-771-8200 FAX.092-761-8361

GINZA TANAKA 福岡天神店
〒810-0001 福岡市中央区天神2-7-12
TEL.092-712-4143 FAX.092-712-4166

宝石のエトウ飯塚店
〒820-0042 飯塚市本町11-26
TEL.0948-22-0480 FAX.0948-23-2779

石福金属興業(株)九州営業所
〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-13-13
TEL.093-531-9331 FAX.093-551-7548

(株)小林時計店
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-6
TEL.093-521-0013 FAX.093-522-7735

(株)ナカノ
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町2-3-22
TEL.093-521-0453 FAX.093-521-9575

ゴールド アンド アサヒ
〒830-0032 久留米市東町34-67
TEL.0942-37-3802 FAX.0942-37-3803

■長崎県

(有)和光
〒850-0901 長崎市本石灰町1-7
TEL.095-821-6363 FAX.095-827-7431

(資)山之内時計眼鏡店
〒855-0804 島原市万町500
TEL.0957-62-3003 FAX.0957-64-3003

ゴールドジュエリー タナカ
〒857-0875 佐世保市下京町4-21
TEL.0956-23-8084 FAX.0956-23-8087

■佐賀県

(株)ニシムラ
〒840-0824 佐賀市呉服元町2-20
TEL.0952-22-6781 FAX.0952-24-5773

■熊本県

ジュエラーキヨタ本店
〒860-0845 熊本市中央区上通町7-3
TEL.096-324-1010 FAX.096-324-6501

(有)恒松時計店
〒868-0501 球磨郡多良木町大字多良木555-2
TEL.0966-42-2382 FAX.0966-42-6567

■宮崎県

日髙本店
〒880-0001 宮崎市橘通西3-10-24
TEL.0985-26-1101 FAX.0985-26-1024

■鹿児島県

(有)共立時計店
〒891-0141 鹿児島市谷山中央2-4185
TEL.099-268-3061 FAX.099-260-1444

■沖縄県

(株)鉢嶺本店
〒900-0006 那覇市おもろまち4-3-8
TEL.098-860-6777 FAX.098-860-3775

(株)山城時計店
〒900-0015 那覇市久茂地3-3-2
TEL.098-867-3093 FAX.098-861-7074

賛助会員

■鉱山

住友金属鉱山（株）
〒105-8716 東京都港区新橋5-11-3
新橋住友ビル3F
TEL.03-3436-7841

中外鉱業（株）
〒100-6312 東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルヂング 12F
TEL.03-3201-1542

東邦亜鉛（株）
〒103-8437 東京都中央区日本橋本町1-6-1
丸柏ビル
TEL.03-3272-5611

DOWA メタルマイン（株）
〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1
秋葉原UDXビル22F
TEL.03-6847-1204

日鉄鉱業（株）
〒100-8377 東京都千代田区丸の内2-3-2
郵船ビル6Ｆ
TEL.03-3216-5265

日本鉱業協会
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町
3-17-11 榮葉ビル8F
TEL.03-5280-2321

古河メタルリソース（株）
〒100-8370 東京都千代田区丸の内2-2-3
丸の内仲通りビル3F
TEL.03-3212-6840

三菱マテリアル（株）
〒101-8338 東京都千代田区内神田2-16-11
内神田渋谷ビル9F
TEL.03-5298-3851

パンパシフィック・カッパー（株）
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-3
JXビル7F
TEL.03-5299-7463

■商社

住商マテリアル（株）
〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-8
晴海トリトンスクエアオフィスタワーW5F
TEL.03-5144-0506

三井物産（株）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1
TEL.03-3285-1111

三菱商事RtMジャパン(株)
〒100-7027 東京都千代田区丸の内2-7-2
JPタワー27F
TEL.03-5221-1770

双日（株）
〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビル24F
TEL.03-6871-2327

■装身具

日本貴金属製鎖工業組合
〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2
オーラム505号室
TEL.03-3836-1704

（一般社）日本ジュエリー協会
〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25
TEL.03-3835-8567

日本貴金属協同組合
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-29-6
TEL.03-3803-5535

中川装身具工業（株）
〒111-0052 東京都台東区柳橋1-29-7
TEL.03-3861-2111

■その他

（株）ADI.G
〒920-0841 石川県金沢市浅野本町1-10-10
TEL.076-251-0115

（株）シラネ
〒460-0012 名古屋市中区千代田2-4-8
TEL.052-261-4636

鈴木貴金属化工（株）
〒332-0001 埼玉県川口市朝日4-21-52
TEL.048-222-3450

ユミコアジャパン（株）
〒107-0061 東京都港区北青山1-2-3
青山ビル5F
TEL.03-5413-9347

（株）東京貴金属地金店
〒110-0005 東京都台東区上野5-21-7
TEL.03-3836-0050

（株）白光
〒730-0036 広島市中区袋町5-13
TEL.082-244-4100

（株）槇島貴金属精錬所
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-32-14
TEL.03-3806-5945

（株）八木橋
〒360-0047 埼玉県熊谷市仲町74
TEL.048-523-1111

（株）吉井商店
〒920-0902 石川県金沢市尾張町1-10-30
TEL.076-221-1678

（株）MARUWA
〒488-0044 愛知県尾張旭市
南本地ヶ原町3-83
TEL.0561-51-0841

GOLD & PLATINUM
2015 No.36

発行日：平成27年9月30日
発行人：田苗　明
編集人：須江 米夫

発行：一般社団法人 日本金地金流通協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2階
TEL. 03-5207-5371（代表） FAX.03-3254-8663
http://www.jgma.or.jp

本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。

安心・安全な取引は、協会加盟店で

一般社団法人 日本金地金流通協会は、各種の広報活動を通じて
金・プラチナの正しい知識の普及に努めています。
金・プラチナの地金、コイン、ジュエリーなどのお取引やお問い合わせは、
信頼ある当協会会員各社のご利用をお勧めします。

GOLD

一般社団法人 日本金地金流通協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2階
TEL.03-5207-5371（代表）

WORLD GOLD COUNCIL

ワールド ゴールド カウンシル
〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル 東館19階

PLATINUM

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー17F